

お客様とキタムラをつなぐコミュニケーション情報誌

# 写友会

カメラのキタムラ カメラ&ビデオのビッグチェーン  
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1  
☎045-476-0777

カメラの  
キタムラ®

平成8年12月1日発行  
季刊第19号

Vol.19  
WINTER

特集  
寂さび

閑寂さの中に本質を求める  
“静”の精神文化

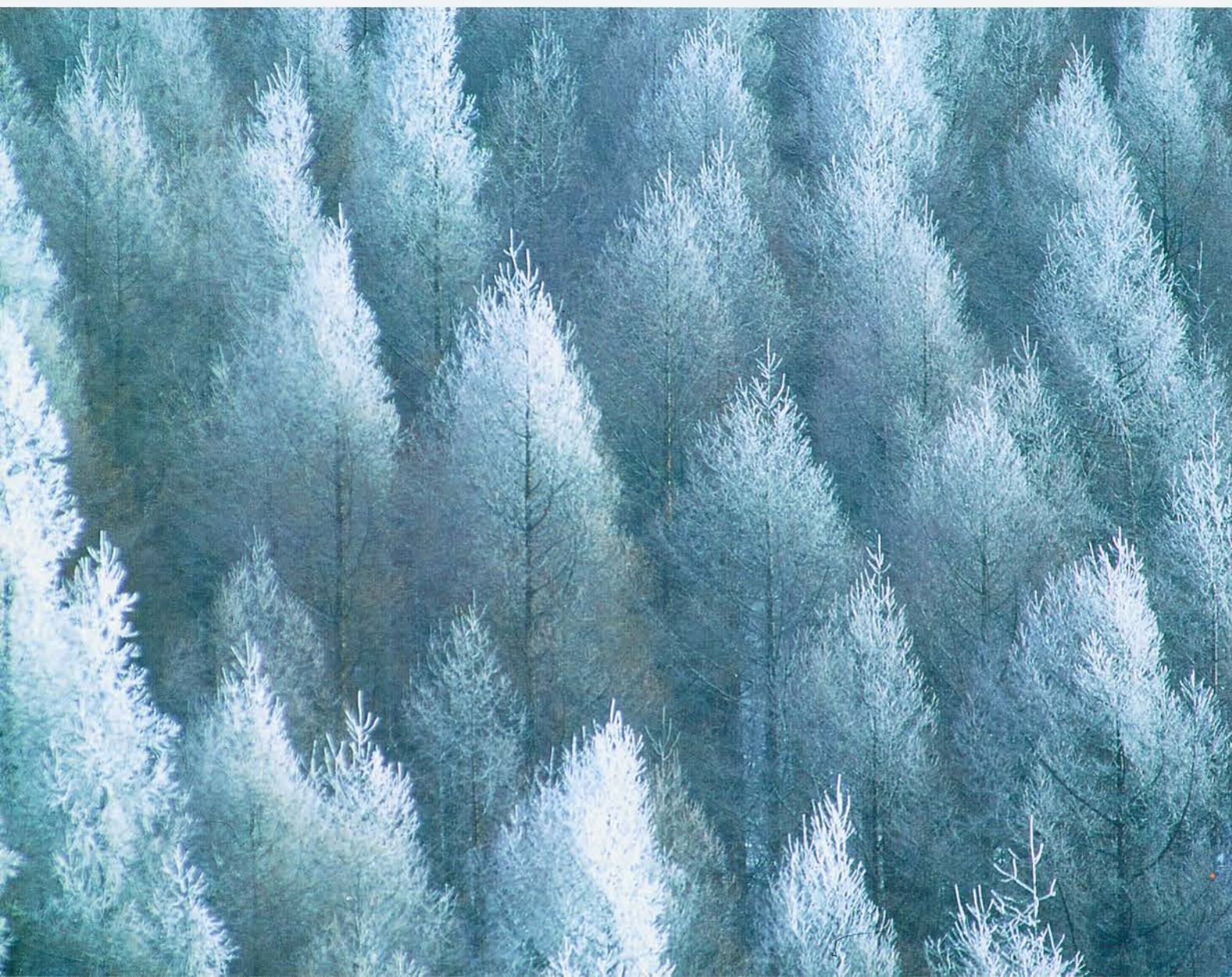
高橋真澄氏インタビュー

.....  
「火の見やぐら」を撮る 網代守男氏インタビュー  
消えゆく風景を、日本人の生活の記録として残したい。  
.....

保存版 三脚特集

「樹氷咲く」最近では川沿いでしか樹氷が見られず、丘の上まで白くなるものが少ない。しかし一面白くなる様は、それは氷の国のように光り輝き、荘厳な想いがする。

■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：400mm  
絞り：f5.6 シャッタースピード：1/30  
フィルム：ヘルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町（撮影）高橋真澄氏







『隻影』 日光が雪面の濃淡を隠す。さりげない樹影が雪の季節を堪え忍ぶ淡々とした息吹を感じる。  
■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：75~200mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町 (撮影) 高橋真澄氏

# 特集 寂

## 閑寂さの中に本質を求め “静”の精神文化

高橋真澄氏インタビュー 自分の感性を研ぎ澄まし、冬の風景に「寂」を見い出す。

高橋真澄先生が撮影した「冬景色の寂」

THE フォトワールド⑦ 「火の見やぐら」を撮る 網代守男氏インタビュー  
消えゆく風景を、日本人の生活の記録として残したい。

保存版 三脚特集



丘陵の中腹にある赤い半鐘。戦争中アメリカの爆撃機が富士山を目標に飛来するたびに、鐘を鳴らして空襲警報を知らせた。  
■カメラ：キヤノン T-90 レンズ：50mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：RVP 三脚使用 撮影地：静岡県河津市 (撮影) 網代守男氏

連載記事

- 写真おもしろヒストリー⑪ ストロボに試行錯誤の歴史あり .....11
- メーカー探訪⑥ オリンパス編 .....14
- フォトライフ ステップアップレッスン⑦ 室内撮影のコツを覚えて、冬の撮影機会をとらえよう。 .....16
- 第4回「チビッコ写真コンテスト」 入選作品発表 .....20
- 読者のページ 写友缶ふれあい広場 .....28
- プレゼントが当たる！クロスワードパズル .....28
- 編集後記 .....28

新しい写真の時代へ



# MINOLTA

### APS一眼レフカメラ VECTIS S-1

アドバンスド・フォト・システム (APS) の先進機能をフル搭載したベクティスS-1は、これからの時代の超小型一眼レフカメラ。簡単な操作でひとクラス上の高画質な映像が得られます。また、充実のレンズ、アクセサリ群に加え、テレビやパソコンで写真が楽しめるフォトプレーヤーもラインナップ。新しい写真の楽しみ方を提案していきます。ミノルタ ベクティスS-1誕生。新しい写真の時代がはじまります。

- 旅行などの際の携帯にも便利。高性能を凝縮した超小型・軽量設計。
- フィルムは、ポンと入れるだけのワンタッチローディング。
- 小雨や雪の中でも安心して撮影することができる防滴設計。
- 途中で巻き戻したフィルムが再度使えるフィルム途中交換機能。
- テレビの大画面やパソコンで写真が鑑賞できるフォトプレーヤー。
- 5本のレンズやカメラガード、水中ハウジングなど、アクセサリ群も充実。

ベクティス希望小売価格(税別) ●ベクティスS-1 Vズーム22-80mm F4.5-5.6付.....¥100,000 ●ベクティスS-1ボディ(チタンカラー・ブラック).....¥62,000 ●Vズーム22-80mm F4.5-5.6 (28-100mm※4).....¥38,000 ●Vズーム28-56mm F4.5-5.6 (35-70mm※4).....¥20,000 ●Vアポズーム80-240mm F4.5-5.6 (100-300mm※4).....¥53,000 ●Vズーム56-170mm F4.5-5.6 (70-210mm※4).....¥29,500 ●Vマクロ50mm F3.5 (63mm※4).....¥35,000 ●ベクティスフラッシュSF-1.....¥18,000 ●ベクティスフォトプレーヤーVP-1.....¥59,800 (リモコン付)

■カタログ運送 住所・氏名・年齢・機種名をご記入のうえ右記まで 〒108 東京都港区高輪2-19-13 (NS高輪ビル) ミノルタカメラ販売株式会社 写友缶係 ●ミノルタベクティスS-1のお問い合わせフリーダイヤル880120-493-881 ●お客様商品相談窓口☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641 ※1 JIS保護等級2 (防滴I型)相当。 ※2ビデオ入力端子付のパソコン、またはビデオキャプチャボードを装備したパソコン。 ※3ベクティスS-1専用アクセサリ。 ※4 35mmフィルムに換算した概算焦点距離。 ※5 1996年10月1日現在。標準ズーム(22-80mm)付、レンズ交換式AF一眼レフカメラにおいて。 ●Vフレックス400mm F8 (500mm※4)は今後発売の予定。

(ミノルタから新発売)



## VECTIS S-1



グッドデザイン  
選定商品



TIPA特別賞  
'96-'97受賞

世界最小最軽量。ミノルタベクティスS-1誕生。



# 特集 寂さび

## 閑寂さの中に本質を求め ”静“の精神文化

【雪舞】降り始めた雪が谷からの風で舞っていた。静かな古色の舞いであった。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：50~200mm 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/125 フィルム：ヘルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



【霧水舞う】マイナス20℃は優に越す寒い朝だった。美瑛川から川霧がわき、霧水を付けつつ漂っていた。その厳しくゆったりとした情景に、自然の奥深さを感じた。  
 ■カメラ：キヤノンF1 レンズ：75~200mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/15 フィルム：ヘルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町

雅楽、歌舞伎、能、謡曲、狂言など、我が国の伝統芸能と呼ばれるものには、どちらかといえばシンプルなお静けさで、リズムの緩やかなものが多いように思われます。静かに湯のたぎる音を聞いて、一服の茶を喫する茶道にしても、終始一貫した静寂さの中で完結する営みといえるでしょう。このように、日本の文化には全体に静的なイメージが感じられますが、これらはその原点として存在する「寂」の感性と無縁ではありません。

「寂」とは、見た目に鮮やかなものよりも外面的には閑寂なものの中に、豊かな広がりを持った内面的の本質を見い出そうとする美意識です。中世の時代には仏教思想の影響から、表面的な豊かさよりも精神的・内面的な充実の中に人生の真実を求めようとする傾向が強くなり、芸術においても奥行きのある美しさが求められるようになりました。千利休の茶の湯をはじめ、松尾芭蕉の俳諧、世阿弥の能、吉田兼好の随筆『徒然草』などはこうした精神の現われといえ、「寂」の美的理念も、これらを背景として成立したのです。

「寂」は、現代の私たちがいう「寂しい」という感情とは全く異質のもので、「おくのほそ道」を旅した芭蕉にしても、孤独の中で自然との関わりによって生じる「寂しさ」を積極的に肯定し、享受していたのです。そしてこうした「寂」を進んで受け入れた人の生き方は、「我がさび」「わび」としてとらえられたのです。

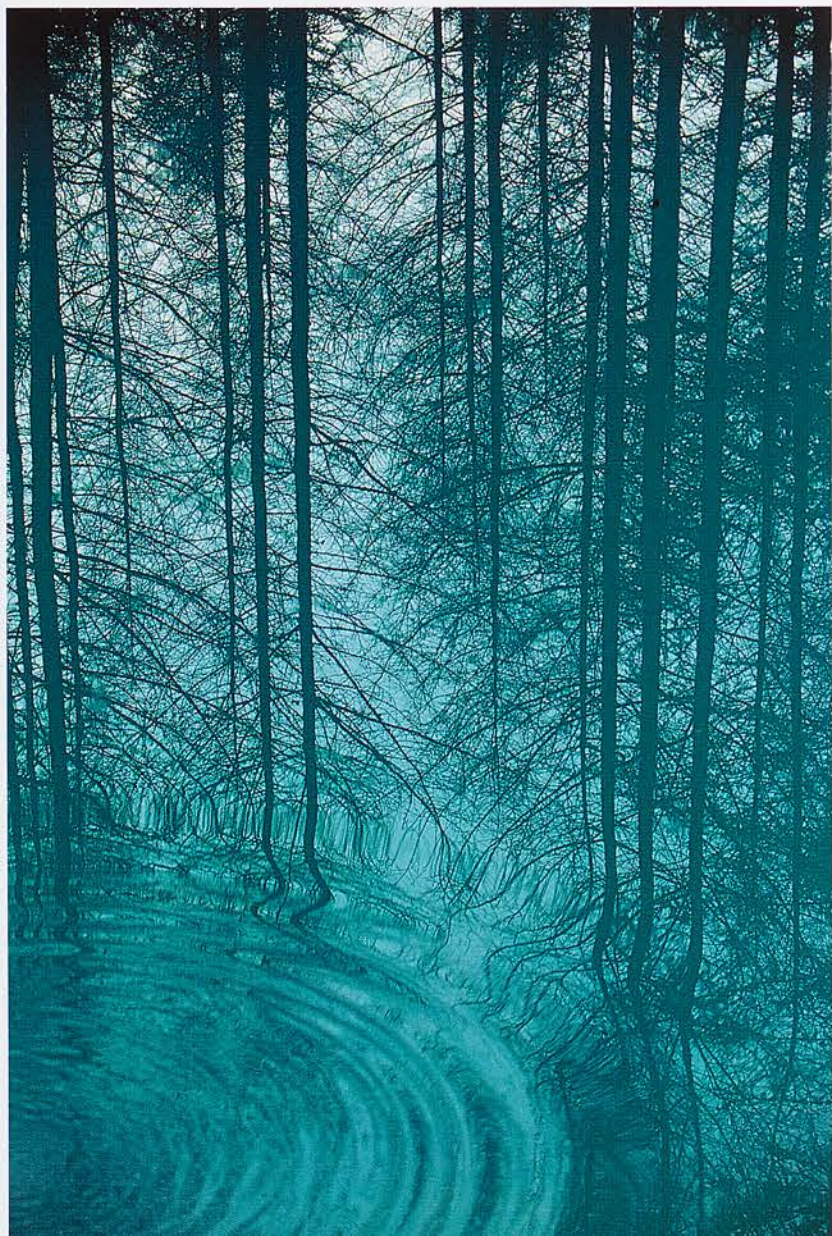
芭蕉には、冬の句に優れたものが多いといわれていますが、荒涼たる雪景色に立つ枯れ木などには今も昔も変わらない「寂」の趣が強く感じられます。しかしそれは決して生命の死を意味するものではなく、春になれば再び葉や花に溢れ、生き生きとした姿を見せてくれるであろう、自然の巡りがそこに想起されるのです。花を待つよりも、凍った雪の中にこそ生命の本質を感得する、そこに「寂」の心があるのでしょう。



【清廉】しんと音さえ凍る厳冬の朝、枯淡な景色が朝日とともに、静かに輝き歓喜の声をあげた。  
 ■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：75~200mm 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/125 フィルム：ヘルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



【雪の造形】吹雪が去った朝、枯れ草に雪が残った。けなげな可愛らしさがそこにあった。  
 ■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：75~200mm 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/125 フィルム：ヘルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



【波紋】白金の美瑛川は温泉水が混じり、瑠璃色をしている。淡々とたたえる水面にカラマツが映り、波紋が空に消えた。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80~200mm 絞り：f4 シャッタースピード：1/30 フィルム：ヘルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



# 自分の感性を研ぎ澄まし、冬の風景に「寂」を見い出す。

高橋真澄 <写真家>

外面的な華やかさよりも、内面に秘められた情緒に価値を見い出す「寂」は、閑寂で枯れた味わいを持つ冬の風景の中に、より強くイメージされる感性です。

北海道の美瑛を中心とした撮影活動の中で、個人的な叙情性を開拓している新進写真家・高橋真澄先生に、ご自身の創作活動における「寂」のとらえ方について語っていただきました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて高橋氏の作品です。



たかはし ますみ  
1959年北海道生まれ。1982年に札幌大学経営学科を卒業後、会社勤めのかたわら美瑛を中心とした丘陵地帯を撮り始め、現在に至る。主な写真集：「NORTH LAND IMAGE」「SHINING」「OFF」「PURE」「風の音」（すべて青菁社）など。CD-ROM：「美瑛・富良野」（1・2集/シンフォレスト）。1996年上富良野に「ノースランドギャラリー」をオープン。

北海道の自然の中には、**静寂な空間が残されている。**  
私は生まれも育ちも北海道なのですが、もともと山が好きで、北海道の山々に登っているうちに、その風景を撮りたいと思ったのが写真をはじめたきっかけです。それとやはり北海道の風景を撮り続けている前田真三先生の作品を見て、そのシブな美しさに心を動かされたことにも、影響を受けていると思います。

北海道の自然というのは、あまり人が踏み込んで来ない広大な空間が、目の前に広がっているようなところが最大の魅力です。しんと静まり返って、物音ひとつ聞こえないような空間というのが、北海道には存在するんですよ。こうした風景には、日本的な「寂」というものを特に強く感じますね。  
私の撮影地は、ほとんどが旭川空港に近い美瑛の周辺です。このあたりの地形は、小高い丘がずつと続いているのが特徴なんです。その高台の上から丘の連なりをずつと見渡せ

るような所は、季節に関わらず、特に私の好きな風景ですね。朝は一面、ガスに包まれることも多いのですが、丘の高台から望むと、雲海の中から山々が見え隠れしているような、神秘的で幽玄な趣を持った風景色になるんです。私は写真を撮り始めて十七、八年になりますが、平日は会社勤めをしています。この地を撮影場所に選んだ理由は、休日の限られた時間内で撮影を行なうには、とにかくモチーフとなる風景が豊富で、その割に都市部にも近いこの場所が絶好だったからです。半年ほど前に、美瑛に近い上富良野にギャラリー兼自宅を建築したのですが、この近辺だけでもまだまだ撮り切れないほど、良い風景が無限に存在する所なんです。

モノトーンで濃淡のある風景に、日本の「寂」が見えてくる。  
「わび・さび」的なものを、自分も常に追求しているつもりなんです。とても一言では言い尽くせない、奥の深い美意識だと思うんです。これらは元来その人が持っている感性や、人生の中で積んできた経験による所も大きいのではないのでしょうか。「何に対して「寂」を感じるか」、また「どれだけ強く感じられるか」というのは人それぞれで、一概に論じることはできないと思います。  
私自身はもともと色が鮮やかなものよりも、枯れた感じの単色・古色に惹かれる傾向があり、墨絵のようなモノトーンで濃淡のある風

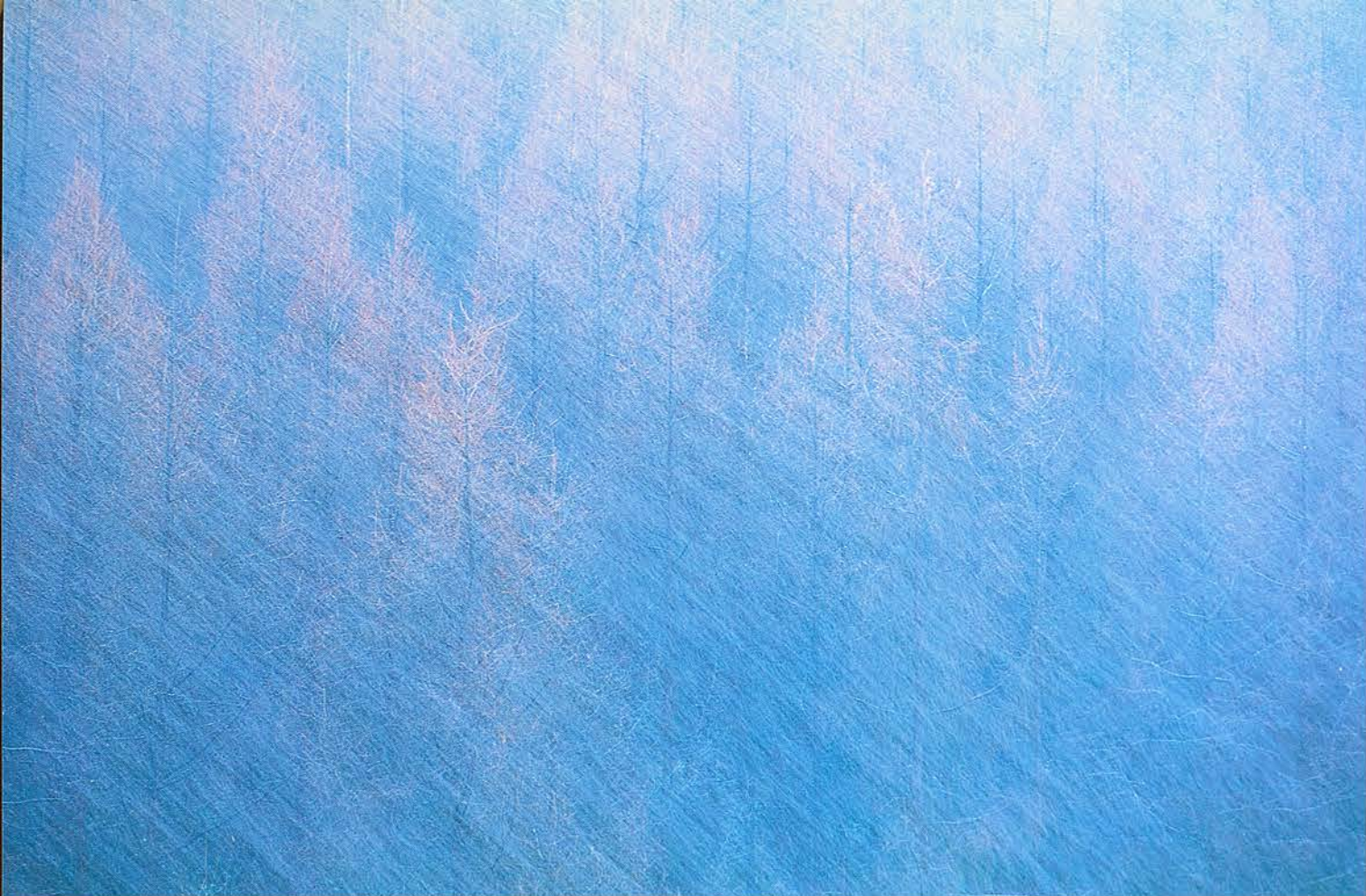
景に、「寂」というものを強く感じます。例えば雪の真っ白な世界の中にも、微妙な濃淡のグラデーションというのが、見事に存在しているんです。同じ雪でも、日の当たっている所とそうでない所で、白の濃淡がくっきりと出るものなんです。逆にこうした風景に色が入り込んでくると、その美しさが薄らいでしまうと思うんです。

また私は、「シブなものの中心こそ、真の美しさのエッセンスが存在する」のだと考えています。目に入った風景の良い部分だけを切り取って、余分なものを排除していくと、風景が象徴的に、そして神秘的に浮き上がってくるんです。例えば冬の野原に茂った雑草だけを撮ったとしても、その枯れた風情がとても美しかったりするんですよ。このシブさの中に「寂」も含まれているのだと思いますが、それをうまく表現することは非常に難しいことだと思います。だから写真を志す者

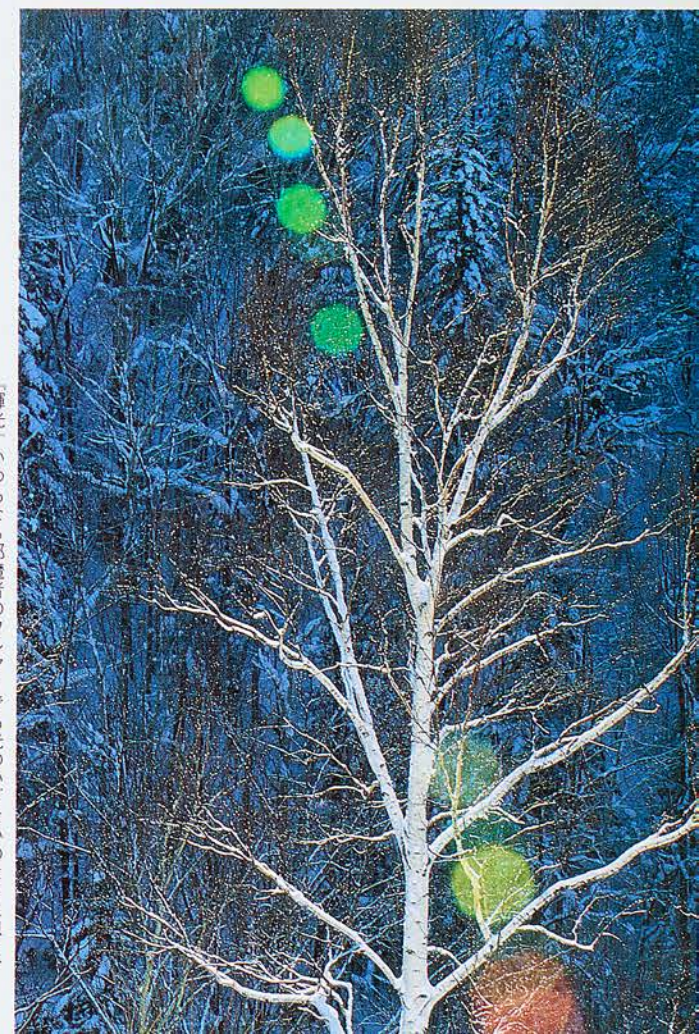
として、これからもまだまだ多くの撮影を重ねていかなければならないと感じています。  
**雪山の撮影には、寒さの中に熱い感動がある。**  
「寂」という感覚は、やはりこれからの冬の季節に、より強く感じられますね。秋の紅葉で最後の鮮やかさを発散し、盛りを過ぎて枯れてゆく樹々の姿には、ある種の円熟味を感じます。そして無に帰ってゆく時の静寂・閑寂な趣がありますよね。雪原の中に、真っ白な樹がボンと一本立っていたりとか、あるいは草が顔を出していたりとか、そういうものを被写体としてとらえて、冬の空間の広がりと空気を、そして時間の流れのようなものを表現できればいいな思っているんですよ。

北海道の冬の特徴は、とにかく雪が積もれば一面真っ白になって、余計なものすべて

上：「初雪の朝」下：「SHINING SHOOT」 光芒の射し込み方は、ある程度経験を積むと予測がたつが、不動のようでも移り変わる自然の一瞬を、どう切り撮るかの判断はとても難しい。2作品とも同時期に撮影しているが、一夜にしてこのように変化することも珍しくない。こちらの想いをいとも簡単に裏切る、自然の妙がとてもおもしろい。  
(上) ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80~200mm 絞り：f4 シャッター速度：1/60 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町  
(下) ■カメラ：アサヒペンタックス6×7 レンズ：200mm 絞り：f8 シャッター速度：1/30 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町

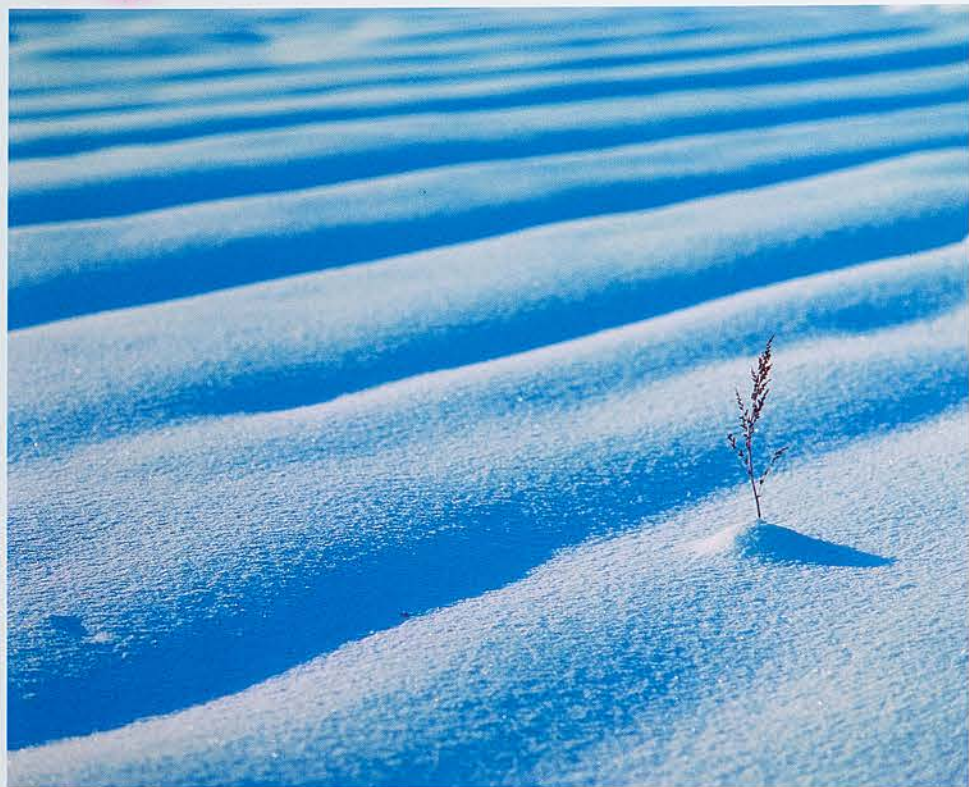


「季節のはざま」 黄金色に輝くカラマツの紅葉もそろそろ終わりを告げ、初雪が舞い始める。色鮮やかな季節を名残惜しむよう、冬へと向かう。  
■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：75~200mm 絞り：f4 シャッター速度：1/125 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



「輝光」いつもなら邪魔者のフレアでも光のいざないのように思え、妙に優しい気持ちになった。いつも自分の心情を高められる、幅広い心根でいたい。  
■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80~200mm 絞り：f2.8 シャッター速度：1/250 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町





『白の絨毯』 リズミカルな起伏と雪の諧調が心地よく、枯れ草の中にも春を待つ想いを感じた。  
 ■カメラ：アサヒペンタックス6×7 レンズ：200mm 絞り：f11 シャッタースピード：1/125  
 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町

『碧の時』 日の出前、朝と夜の狭間、そろそろ大気が動き出す。厳冬の中、川霧がわきだし碧く染めた。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80~200mm 絞り：f4 シャッタースピード：1/15 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



『残照の丘』 音もなく静かに消える景色。なぜかそこに音がある。私と景色の間に、心に響く音がある。  
 ■カメラ：アサヒペンタックス6×7 レンズ：200mm 絞り：f8  
 シャッタースピード：1/15 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



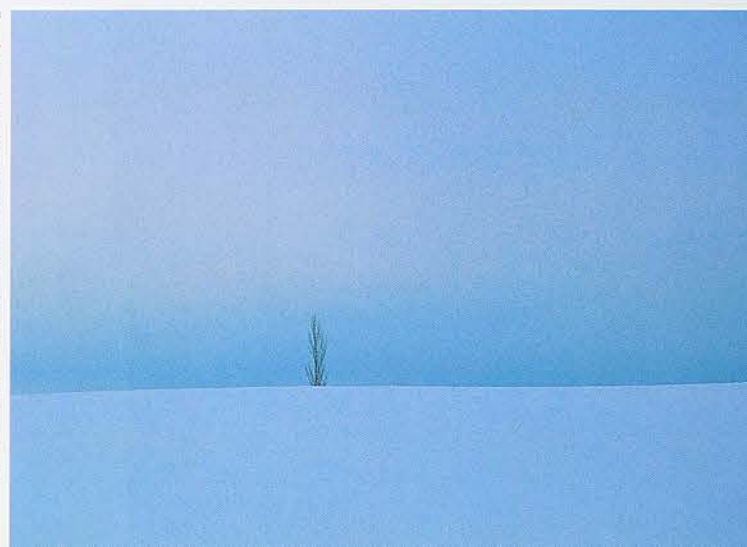
覆い隠されてしまうことですね。そして音も凍りつくような静けさの中で、氷霧がたちこめてきて、思わず手を合わせたくなくなってしまふような、荘厳で神聖な雰囲気にも包まれるのも冬ならではの魅力です。

ただし雪山深くに踏み込んでいって、写真を撮影するという作業は並大抵ではありませぬ。まず真冬は零下20度以下に冷え込むので、機材を含めた寒さへの対応が大変なんです。写真を撮る以前に、現場まで行つてリュックからカメラを出すまでが、まずひと苦労なんですよ。そういう意味では体力も精神力も要求されます。それだけに極寒で顔から湯気が昇っているような日の出間近の頃、逆光でハッと陽が射し込んだりしたりした時の光景などは、とても言い表せないほど美しく感じられます。寒いけれども、何か熱い感動のようなものが込み上げてくるんですよ。

**「寂」の風景に、撮る者の創造力が  
かきたてられる。**

私の撮影方法というのは、とにかく自分が撮りたいと思った物を撮っているだけで、あまり技術的なことは意識しないんですよ。どんな機材を使っているかというようなことよりも、まず自然を好きになって、それがどのように変化していくかとか、そういうことに気を配りながら、自分の感性を磨いていくことの方が大切なんだと思います。

『静謐』 遠近感が無くなったようだった。一本の木だけが静かに浮かび上がった。  
 ■カメラ：キヤノンF1 レンズ：75~200mm 絞り：f8  
 シャッタースピード：1/125 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



**植物が無に帰ってゆく冬の自然に、静寂・閑寂な趣を感じる。**

て、いろいろなことを考える間の部分というのがあるように思えます。そういう意味では「寂」の風景の方に、より撮る側の創造力が働くのだと思います。

写真作品には撮った人の技術以外に、育った環境のようなものも、色濃く反映されるのではないのでしょうか。その土地ごとに違った空気感というものがあるはずなので、私の作品にはきつと、北海道の空気感のようなものが、表れているのだらうと思います。また、その人が暮らしの中で積み重ねてき

たものの影響というの大きいのではないのでしょうか。私は日本画などを見るのも好きです。それから、無意識にこれらのエッセンスが、今まで自分の頭にストックしていた「寂」の風景写真像にプラスされ、さらに良い風景のイメージを追い求める気持ちにつながるんだと思います。だから北海道に生まれ育ち、ある時は厳しく、またある時は優しい自然を肌で感じてきた自分ならではの作品を撮るために、これからも感性を磨く努力を続けていくつもりです。

特に「寂」を感じさせる単色の世界というのは、撮る人が自分の経験や人生の中で培ってきたものをそこに映し出すことで、その人なりの表現というものが引き立ってくるのではないのでしょうか。色鮮やかなモチーフなら、そのビジュアルだけで撮る人をグッと引きつける力を持っているのですが、閑寂な趣の風景の場合、そこで自分の気持ちを見つめ直し



# 寂さび

特集

## 高橋真澄先生が撮影した「冬景色の寂」

風景の中に最も「寂」が感じられる季節は、やはり何と云っても冬ですね。そこで今回は、特集ページにご登場いただいた写真家・高橋真澄先生に、先生の地元である北海道・美瑛町の美しい冬景色の数々を、ご自身の作品で紹介していただきました。

「淡々と」墨絵のような世界であった。夜明け前の静かな時だった。  
 ■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：75～200mm 絞り：f4  
 シャッタースピード：1/60 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



「厳流」夜明け前、凍りながら流れる川。厳しさの中に幽玄さを見た。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80～200mm 絞り：f4 シャッタースピード：1秒 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



「白い森」暫く陽が射し、シラカバの木を照らした。今まで沈んでいた景色が音をたて、浮かび上がった。  
 ■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：75～200mm 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/125 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



「ダイヤモンドダスト」寒く厳しく荘厳な花、視覚が音に変わる、そんな一瞬だった。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80～200mm 絞り：f2.8 シャッタースピード：1/250 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



「初雪の頃」色鮮やかな紅葉も盛りを過ぎ、最後にカラマツを黄金色に染め、初冬へと向かう。まだ彩りの季節に想いを残す、初雪の朝だった。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80～200mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町

「静寂」落日が空にとけこみ、大気にじむような清らかな時だった。  
 ■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：400mm 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/30 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



「厳冬の熱い流れ」夜明け前、美瑛川を中州まで漕いでいった。芯まで凍る中、日の出を待つ。昇る朝日に流れは沸き立ち騒然となる。至福の一瞬であった。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：80～200mm 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/125 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道美瑛町



高橋真澄先生の作品展示及び写真集販売を行なっているギャラリーです。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

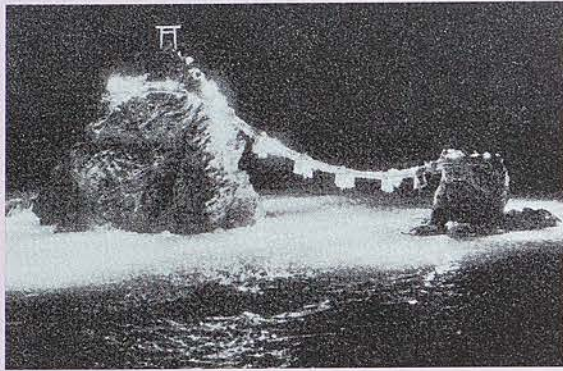


美瑛駅から国道237号線を富良野方面へ車で10分。美しい丘の大地と十勝岳をはじめ、大雪山連峰が眼下に広がり、真っ赤なボールが印象的な建物です。北海道中央部の広大で清涼な自然風景を四季折々とらえたカラー作品をパネル展示。●入場無料 ●営業時間／10:00AM～5:00PM(5月～10月)

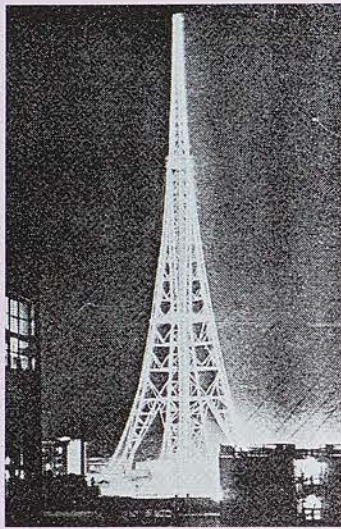
ノースランドギャラリー  
 〒071-04 北海道空知郡上富良野町西7線北33号  
 TEL.(0167)45-6660



# ストロボに試行錯誤の歴史あり



上:フラッシュガンで発光した二見浦の夫婦岩。



左:フラッシュガン10,560個を一度に発光させ、夜空に浮かび上がったテレビ塔。

(写真資料提供:松下電器系列ウエスト電器「ウエスト電器30年のあゆみ」より抜粋)

フィルムのことを「感光材料」と言いますが、写真はレンズから入ってきた光をフィルムに焼き付けて画像を写し出しています。このため光がなければ写真は写すことができません。最近ではISO感度1600といった高感度フィルムも現れ、微量の光でも写真が撮れるようになりましたが、一昔前までは夕暮れ近くの軒下では光量が足りないために、フィルムが感光しないといったことも珍しいことではなかったのです。そこで登場したのが人工光源です。

人工光源には大きく分けると定常光と閃光とがあります。定常光は電球のように一定の光量を長時間放っている光源のことで、写真用の定常光としてはカーボ

写真用途の人工光源として一般の方にも馴染みが深いのは閃光であるストロボで、今では多くのカメラにストロボが内蔵されています。しかし少し前までは、

閃光の光源はその後、熱を発生しないストロボにとって代わられます。当初のストロボはバイパス方式といって、発光させるごとにコンデンサーに溜められた電力を一気に放出してしまいうため、再び発光させるためには、長い時間を置いてコンデンサーを充電しなければなりません

カメラ撮影用の閃光にはストロボではなく、フラッシュガンが使われていました。昭和30年3月26日の夜、このフラッシュガンを用いた一大撮影会が東京で行われました。地上173mのラジオ東京のテレビ塔に、一万个以上のフラッシュガンを設置し、その全景を夜空に写し出す一瞬のショーです。これはその当時、フラッシュガンとしては世界最大規模の数を有したものでした。同様のイベントが吉野の千本桜、岩国の錦帯橋、二見浦の夫婦岩、広島島の原爆ドーム、大阪の通天閣など各地で開催されました。

しかしマグネシウム粉末を用いるフラッシュガンは、マグネシウムの量を一つ間違えると大ヤケドを負ってしまう大変危険なものであり、このため当時のカメラマンは命懸けでシャッターを押していました。古くからある写真館のご主人には右手にヤケドを負っている方が多いのですが、多くはこのフラッシュガンによるものです。

現在のストロボに採用されているものはシリーズ方式と呼ばれ、発光した光が被写体に反射し、返ってきた光量を即座に計算してコンデンサーに情報を与え、全ての電力を使用しないように制御しています。このため、充電時間は非常に速くなりました。コンデンサー自体の性能も上がっていますから、ストロボの利便性は一段と高まっています。

カメラの端で被写体を照らし出す小さな閃光。今では当たり前のように思えるその輝きにも、試行錯誤の歴史があったのです。



ストロボをカメラに内蔵し、爆発的人気を集めたビツカリコニカ。この機種以降、ストロボビルトインカメラが次々と登場した。

## 写真おもしろヒストリー ⑪

# Nikon

超かんたん・新システム対応コンパクトカメラ

# ニュービス Nuvis

新発売



**Nuvis 125i**  
コンパクトなボディに30mm~100mm迫力の3.3倍ズーム(リモンケースストラップ付)  
希望小売価格(税別).....¥50,000



ニヤンとも、  
かんたん。

■カタログをご用意しています。機種名を明記の上、100-91 東京中央郵便局私書箱1269号 株式会社ニコン お客様相談室迄請求ください。  
株式会社ニコン 本社 100 東京都千代田区丸の内3-2-3 (富士ビル) 製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話 (03)-3216-1010

## 京セラ株式会社

Dynamic Maturity  
**CONTAX G2**



- アクティブ方式とバッシュ方式併用による高速・高信頼性のオートフォーカスシステム。
- 大型フォーカスダイヤルにより操作性を向上させたマニュアルフォーカス。
- 最高速1/6000秒、ストロボシンクロ1/200秒の高速シャッター搭載。
- 最高約4コマ/秒の高速モータードライブによる撮影レスポンス向上。
- Gシリーズ用最新交換レンズ、Biogon T\* 21mm F2.8, Planar T\* 35mm F2を同時発売。
- メーカー希望小売価格(税別) / G2本体:163,000円、データバックGD-2:65,000円、ビオゴン T\* 21mm F2.8:120,000円、プラナーT\* 35mm F2:47,000円

お問い合わせ:京セラ(株)光学機器事業本部  
〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 TEL.03(3797)4611(代)  
◎京セラインターネットホームページ http://www.kyocera.co.jp/





小江戸・川越のシンボル「時の鐘」。明治26年、川越の大火の後、江戸時代の図面で再建されたもの。大名火消や定火消の火の見やぐらと同型。毎年、成人の日に時の鐘の前で、町火消しの特技「梯子乗り」が行なわれている。  
 ■カメラ：キヤノンT-90 レンズ：20mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/250 フィルム：RFP 撮影地：埼玉県川越市

やぐらと人々の暮らしとの関わりが、一枚の写真の中に表現されている。こうした考え方は、彼が長年テレビカメラマンとして紀行番組を手がけてきたこととも関係があるのかも知れない。

「表現上の狙いとしては、まず火の見やぐらの「高さ」を感じさせることをいつも考えています。そのために、なるべくローアングルから空に抜けるような構図の取り方をしています」と網代氏は語るが、画面に空を入れるためには気をつけなければならないことが多いという。そのひとつは、カメラを空に向けて電線や電話線など、ケーブルが縦横に走っている、画面構成上うるさくなりがちだということ。「こうしたものを極力排除するために、アングルを変えるなどの努力をしています。写真というのはそれだけで、見る人に対して言葉の何万語にも値する語りかけをするものだと思えます。だからなるべく画面は不要なものを整理して簡潔な方がいいんです」と網代氏。また空を抜く時のもうひとつの注意点は、光のバランス。空と被写体とのコン



村おこしに熱心な八坂村は「そば」と山村留学、村営の温泉「明日香荘」やぐらに付いている鐘は火事に、板木は集会所の合図に使われている。  
 ■カメラ：マミヤ645 レンズ：150mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/30 フィルム：PKR 三脚使用 撮影地：長野県八坂村

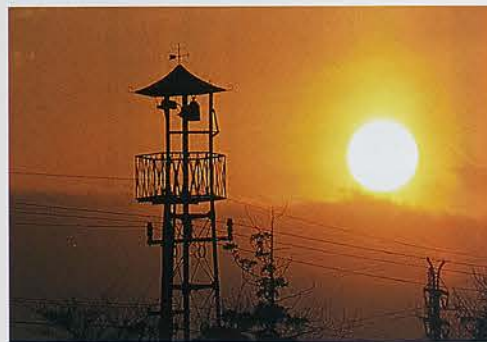
トラストが強過ぎて主題の部分がつぶれたりしないように、特に注意を払って撮っているという。

撮影を続ける上で特に苦労したのは、モチーフとなる火の見やぐらを見つけ出すこととか。「火の見やぐら自体の絶対数が少なくなっていますから、自分の力だけではなかなか探し切れません」という網代氏がよく使った手は、まず電車の窓から火の見やぐらのありそうな場所の目星を付け、近くの駅で降りたらタクシーに乗るといった方法。ひとつ火の見やぐらがあれば、その周辺に集中しているので、地元をよく知っているタクシーの運転手さんにお願すれば、一日に大体10カ所位の火の見やぐらに連れていってもらえ、効率のよい撮影ができるという。

もし我々がこれから火の見やぐらを撮りたいと思ったら、どんなことを心がければ良いかをお尋ねしてみると、「自分は火の見やぐらをどのようにとらえたいのかを明確にすることが大切ですね。見張り台の形などに着目して造形的にとらえるのか、それとも私のよ



戦後、火事の時に知らせる鐘が無かったので、近くの田浦の航空隊から爆弾の薬きょうを持ち出し、半鐘を作って緊急時に対応した。同じものが沖繩本島や石垣島でも見られた。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：28mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/250 フィルム：RDP2 撮影地：鹿児島県指宿市

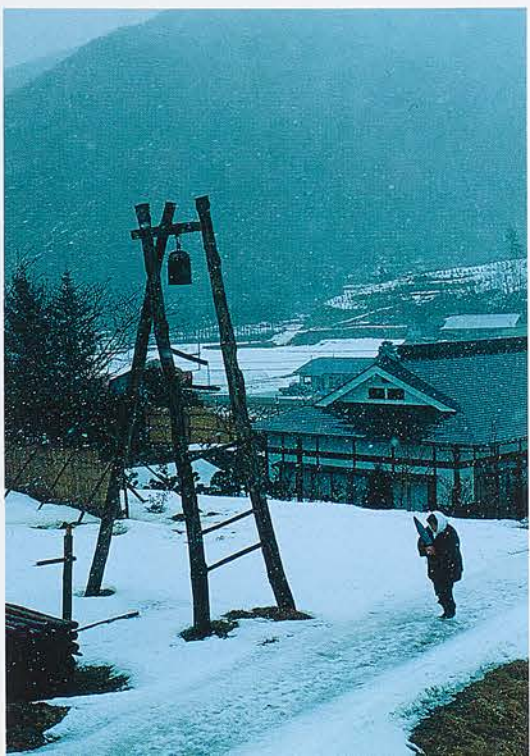


我が家の近くの火の見やぐら。暇があると日没を撮りに行くが、なかなか思うように撮れない。期待半分、不安半分、しかし楽しいひとときである。  
 ■カメラ：キヤノンT-90 レンズ：500mm 絞り：f16 シャッタースピード：1/250 フィルム：RDP 2 三脚使用 撮影地：埼玉県川越市



あじろ もりお  
 1932年東京都生まれ。59年にNHKに入社し、カメラマンとしてニュースや紀行番組を手がける。78年に埼玉県川越市に移り住み、本業のかたわら火の見やぐらを撮り続ける。写真展は88年の『火の見櫓・望楼のある風景』など3回開催。93年に写真集『火の見櫓のある風景・東日本編』を出版。96年にフリーの写真家として独立し、近く新しい写真集を出版予定。

集落の入口にある半鐘。梯子が壊れ、鐘を打つこともできない。誰からも忘れられた半鐘。  
 ■カメラ：キヤノンAE1 レンズ：50mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：RDP2 撮影地：岩手県遠野市



THE  
 フォトワールド  
 ⑦

「火の見やぐら」を撮る

消えゆく風景を、日本人の生活の記録として残したい。  
 網代守男氏 〈写真家〉

見張り台に半鐘を取り付けた「火の見やぐら」は、かつては木造などが多かった日本の家屋を火災から守るために、各集落ごとに建てられ、江戸時代から人々の暮らしを見守ってきた。しかし119番の消防体制が確立した現在、街の景観の近代化とともにその姿を消しつつある。こんな「火の見やぐら」を全国を回って撮り続けている網代守男氏は、もともNHKのテレビカメラマンで、かつては「新日本紀行」などの番組を手がけ、日本の情景を茶の間に伝えてきた。そんな網代氏が火の見やぐらを撮り出したのは、20年近く前。東京勤務となつて移り住んだ埼玉県川越市で、明治時代に作られた古い半鐘を見つけ、「ま

だこんな光景が日本に残っていたのか」という新鮮な驚きを感じたことがきっかけだったという。

網代氏の作品を見見すると、山村にひっそりと佇む日本の情緒を持ったやぐらから、都会のビル間に建つ近代的な望楼まで、様々な趣のものが見られる。また同じ火の見やぐらでも、それぞれの地域性が出ていて興味深い。例えば東北地方の場合、冬は積雪に覆われるので、火の見やぐらは建物の屋根から突き出した塔のような形をしており、中から半鐘が叩けるようになっていた。また、戦後の物資が不足していた頃に沖繩県や鹿児島県で作られたものは、爆弾の薬きょうや酸素ボンベを半鐘の代わりにしており、これを火災や緊急時に叩いて使ったという。火の見やぐらには、こうした土地ごとの歴史や文化が深く刻み込まれているのだ。

「火の見やぐらをカタログ的に撮って回るのでなく、その中に人々の生活を織り込んでいかなければ、面白い写真にはなりません」と網代氏は力説する。「それぞれの地域で暮らす人々の生活感というものが、火の見やぐらの背後に見えてくるはずなんです」と彼が語るように、ある時には杖をついたお年寄りが歩いている傍らに、またある時は都心のマンションと並ぶ姿を、といった形で見事に火の見



昭和34年、御母衣ダム建設のために移築した若山家をはじめ、飛騨の各地から集めた民家や小屋などでひとつの村ができた。田や畑、火の見やぐらもある。  
 ■カメラ：マミヤ645 レンズ：150mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：RVP 三脚使用 撮影地：岐阜県高山市飛騨の里

うに、人の暮らしとの関わりの中でとらえるのか、あるいはもっと情緒的にとらえたいのか。それと、自分なりのテーマが決まったら、最初からあちこち回らずに、私が川越でそうしたように、まずは自分の住む周辺からじっくりと腰を据えて取り組んでください。自分が一番いいと思える場所や季節・時間などがきつと見つかりますから」と網代氏。





オリンパスμズーム105 (1995年)  
高い解像力を持つ38~105ミリの3倍クラスズームレンズを搭載しながらも、240gという超小型・軽量ボディを実現。より上品で洗練されたシャンパンゴールドタイプもラインアップ。

撮影機能以外にも目を向けた  
μシリーズの大ヒット。

オリンパスは、常に小型軽量かつ高性能な製品作りで我が国におけるカメラの普及に貢献してきたメーカーである。まず最初に、こうしたオリンパスの理念と技術が集約されたコンパクトカメラの流れについて伺ってみよう。

オリンパスにおける二十数年のコンパクトカメラに着目すると、ボディ前面にスライド式カバーを取り付けた、いわゆる「バリアタイプ」として世界初のカメラであったXAや、

それまでとは違ったプラスチック素材の使用により、一層軽くて衝撃にも強いボディを実現したAF1、そして現行の大ヒット製品μ(ミュ)シリーズへと続く流れが見られる。

XAの斬新な形状を受け継ぎつつ、全く新しい設計思想から開発されたAF1は1986年の発売。この機種は「ぬれてもピカソ」の愛称で親しまれた通り、世界初の生活防水機能を持っていた。ボディを汚してしまった時などでも、軽い水洗いなら大丈夫だ。これは防塵機構にもなり、砂漠をオートバイで疾走するライダーなどにも重宝がられたという。

このカメラが、「撮影機能以外の部分にも目を

OLYMPUS®

メーカー探訪⑥

オリンパス編

ユーザー指向から生まれる  
柔軟な発想と新しい提案。

オリンパスのカメラといえば、発売当時は世界最小・最軽量といわれたOM-1に始まる、一眼レフのOMシリーズなどを、誰しもがすぐに思い浮かべることでしょう。今回は、こうした独自性のある製品作りの伝統を受け継ぎ、そのほかの展開においても様々なタイプの優れたカメラを市場に送り出しているオリンパスを訪ねてみました。

向けよう」という発想を我々が持った始まりだったと思います。生活防水などは写真に表れない機能ですから、ユーザーからは認められにくいんです。しかし我々からユーザーに対する心づかい、そして新しい提案としての付加価値があってもいいのではないのでしょうか。」と語るのは、オリンパス光学工業(株)商品開発担当部長の鈴木達哉氏。そしてこの発想こそが、後に大ヒット製品となったオリンパスμへとつながってゆくのである。

1991年に発売されたμは現在、単独で400万台、シリーズ機種も合わせると600万台を超えるセールスを記録しているとい



オリンパス光学工業(株) 第1開発部 鈴木達哉部長

う。どこにその人気の秘密があるのだろうかとお聞きすると、「カメラという男性が持つイメージが強いんですが、実際には子供のいる主婦だとか、女性の使用機会の方が多かったりするんです。このように固定観念を捨てて実際のユーザー像を思い描いてみると、おのずと違った視点の発想が浮上してくる。μはそこから発想されたカメラなんです」と鈴木氏はそのヒントを教えてください。

そもそもカメラというのは、実際に使っている時間よりも持ち歩いている時間の方がずっと長いもの。例えば女性がドレスアップして結婚式に呼ばれたとしたら、その時の持ち物として違和感のない、スマートなデザイナーのカメラが欲しい。つまり、μは女性ユーザーを視野に入れ、彼女たちが持ち歩いても抵抗がないデザインと、負担なく扱える携帯性を備えたカメラなのだ。良い写真を撮るための機能を備えているのはもちろんだが、それに加えてこうしたファッション性や扱いやすさ、また、長寿命のリチウム電池使用による安心感など、「心の満足」の部分に重点を



生活防水機能が付いたAF-1は、「ぬれてもピカソ」の愛称で親しまれた。

置いているのが、このカメラならではの特徴である。

現在μシリーズは、パノラマ途中切り替えを可能にしたμズームパノラマや、105ミリまでのズームレンズを搭載したμズーム105などへの展開が図られ、さらなる進化を続けている。

単なる小型軽量化だけではない、  
ユーザーが主役の製品作りを。

一方、オリンパスの一眼レフ製品に目を向けてみると、1990年のL1に始まるLシリーズの展開には特に興味深いものがある。ちょっとホームビデオカメラの形にも似たこのシリーズは、上から見た時のフォルムがちょうどL字型をしているため、この名が付いたそう。実際に構えてみると、実にしっく

りと手に馴染み、他のカメラにはないホールディングの良さが実感できる。カメラやレンズの機能、そしてフィルムの質なども飛躍的に向上した今、重たい交換レンズを何本も揃えなくとも十分に良い写真は撮れるというオリンパスの「提案」から「オールインワン」をコンセプトにしたLシリーズは、3倍または4倍のズームレンズが標準搭載されているのが最大の特徴だ。そして今年、このLシリーズのコンセプトを継承した新しい機種が誕生した。APS(新システム)に対応したセンチュリオンである。

「Lシリーズを、もっと誰でも気軽に使える大きさにしたカメラがセンチュリオンです。APSの画面サイズやフィルムサイズなどの特性を、最も有効に活かせるカメラを考えてゆくと、Lシリーズが最適だと我々は判断しました」と鈴木氏。ここにも小型軽量化を追求するオリンパスらしさが表れている。

「しかし、オリンパスを小型軽量化を目指すだけのメーカーとは思っていただきたくありません。単にカタログ上で「世界最小」などと謳いたいだけなら、物理的に削られる部分というのは色々考えられますが、そうはしたくない。必要な所は残し、不必要な部分は削って、最も使いやすい形を考えた上での小型軽量化



を考えるのが、我々の仕事だと思えます」と鈴木氏は力説する。見た目のユニークさで語られがちなオリンパス製品だが、それは常にユーザーを主役に据えた柔軟な考えに立ち、使う人の気持ち尊重してきた結果なのだ、今回の取材を通じて我々も痛感させられた。

オリンパスピカソAF-1クォーツデット (1986年)  
コンパクトカメラとして初めて生活防水・防塵機構を採用。長寿命のリチウム電池を電源とし、光量不足や逆光の時には自動発光する、画期的な全自動ストロボを搭載。



オリンパスμ (1991年)  
世界最軽量の超小型ボディに、美しさと機能性を両立させたデザイン。どの距離でも瞬時に正確なピント合わせができる高精度AFや、35ミリまで接写できるオートマクロ機構を搭載。

オリンパスμズームパノラマ (1993年)  
μのスタイリッシュなボディに35~70ミリの2倍ズームを搭載。さらにパノラマ/標準の途中切り替え機能により、一本のフィルムで好きな時だけパノラマ撮影が楽しめる。



オリンパス OZ120ズーム (1994年)  
120ミリまでの望遠撮影を可能にした3.4倍ズームレンズを搭載。さらに生活防水機構、最高秒間4コマの高速連写、ファインダー内測光など、屋外撮影に最適な先進機能を満載。



オリンパスセンチュリオン (1996年)  
新システムAPSに対応した、高画質の4倍ズームレンズ一体型AF一眼。AF機能の大幅な高性能化とともに、ボタンを押すだけで撮影シートの最適な露出が選べる簡単操作を実現。





# 室内撮影のコツを覚えて、冬の撮影機会をとらえよう。

寒い木枯らしの吹く冬は、とかく外に出るのがおっくうになりがちです。冬は作品が少なくなるという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ちょっとご自宅を見回してみませんか。たとえばペットをお飼いになってくたさい。たとえばペットをお飼いになってくたさい。たとえばペットをお飼いになってくたさい。

室内撮影の特徴は、光量が足りない状況での撮影が多いことです。室内でも窓際で撮影する場合は、窓から射し込む陽光が補ってくれるので、それほど神経質になることはありませんが、夜の撮影や、また昼間の撮影であっても屋外の陽光が遮られた場所での撮影では、光量が不足がみえます。しかし、その光量不足を補うために、室内照明に使われている蛍光灯や電球などのタングステン光を用いると、カラープリントにした時にカラーバラン



蛍光灯下ではグリーン化が激しい。



同じ条件でケンコーFL-Wの蛍光灯対応フィルター使用。

蛍光灯には補正フィルター、電球にはタングステンフィルムを。

室内撮影の特徴は、光量が足りない状況での撮影が多いことです。室内でも窓際で撮影する場合は、窓から射し込む陽光が補ってくれるので、それほど神経質になることはありませんが、夜の撮影や、また昼間の撮影であっても屋外の陽光が遮られた場所での撮影では、光量が不足がみえます。しかし、その光量不足を補うために、室内照明に使われている蛍光灯や電球などのタングステン光を用いると、カラープリントにした時にカラーバラン

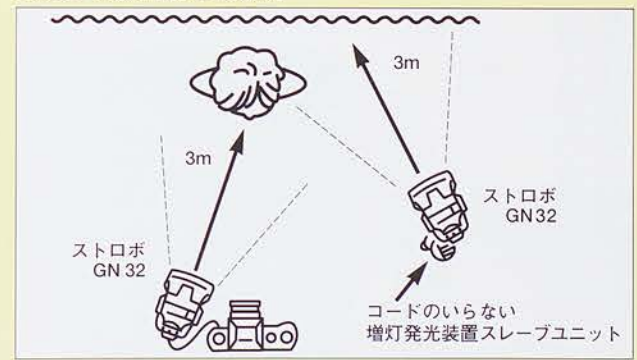
スが崩れ、見た目は異なった色になってしまいます。たとえばデイルイトフィルムを使って蛍光灯下で撮影を行うと、補正フィルターを使用しない限りプリントは青味がかかってしまいますし、補正フィルターにしても、必ずしも蛍光灯に対して万能というわけではなく、蛍光灯の種類によっては、カバーできない場合もあります。

一方タングステン光の場合は黄味や赤味が強いプリントになってしまいます。写真に暖かみを加えたいというのであればこれでもいいのですが、通常はタングステン用のフィルムを使用した方が、期待した通りのカラーが得られます。光源の種類とフィルムの選択には気を配るようにしましょう。

## ストロボにもひと工夫。反射光も考慮しましょう。

このように、光源に室内光を利用した場合にはプリントの仕上がりの色が変わってしまいます。ストロボを用いることになるのですが、ストロボを使用する場合は注意しないと、背景の壁面などに被写体の影がクッキリと写ってしまいます。これはストロボの閃光が強すぎるためで、このような場合にはハンカチや布でストロボの光源部分を覆ったり、光を壁面などに反射させて被写体に当てるなど、

## バックの影を消したい時



■露出の決め方 カメラ側ストロボだけのガイドナンバーで決定します。例：距離3mでガイドナンバー(G.N)32 GN32÷3m=10.6 絞りはF11となります。

またストロボの閃光の到達範囲は限られているため、ごく近距離までしか届きません。バックが極端に暗くなってしまうこともあり、被写体と背景との距離があまり離れている状況でのストロボ撮影はお勧めできません。また「背景を整理する」という写真の基本も忘れずに。特に動物は体が小さいだけに、写真にしてみると、周囲の些細なもの

も意外と邪魔になることがありますので、十分に気を配りましょう。レンズは明るめ、三脚を用意しましょう。光量の少ない室内撮影では、レンズはF値が2や14といった明るいものの方が有利です

## ペットの撮影はライティングよりもシャッターチャンス優先して。

ペットの犬や猫を撮影する場合には、人間の子供を撮影する時と同じように、機嫌の良い時を見計らって狙いましょう。何かに興味を持って居る時などは絶好のチャンスです。このような場合にはライティングよりもシャッターチャンスを優先して、シャッターを多く切るようにしてください。家族にファイナダーから外れた場所からあやしてもらってもいいでしょう。

小鳥などの、犬や猫よりもずっと小さい動物を撮影する場合には、接写レンズを使用すると邪魔なオリの線や背景をボカすことができます。また、特に毛並みの柔らかい動物は、光量が足りないと毛並みが硬く写ってしま



第1回ペット・動物ふれあい写真コンテスト 最優秀賞「フライングアタック」撮影者 小山西

注意してください。



第1回ペット・動物ふれあい写真コンテスト 最優秀賞「お願いしま〜す」撮影者 辻清一

カメラのキタムラ  
第2回ペット・動物  
ふれあい写真コンテスト開催  
●12月中旬より作品募集開始  
●詳しくはキタムラ店頭募集  
チラシ・ポスターで

このように、室内撮影には屋外での撮影とは異なるテクニックが必要とされます。この冬、室内撮影の作品に取り組み、ご自身の撮影の幅をひと回り広げてみてはいかがでしょうか。意外な発見や喜びがあるかも知れませんが、三脚が必要で



猫の目にストロボ光が直射すると一種異様な目になる。

**RICOH**  
レンズの力。リコーGR1誕生。

**GR1**

ボディカラー：ブラック/シルバー（サイズ：117mm×61mm×28.5mm）  
メーカー希望小売価格 GR1本体（革ケース・ストラップ込）…¥90,000（税別）  
デイト付…¥100,000（税別）

リコーカメラお客様相談窓口  
〒104 東京都中央区銀座6-14-7 株式会社リコー パーソナル事業部  
0120-007962  
●受付時間 月曜から金曜/9:30~18:00 土曜/9:30~15:00  
●日曜・祝日はお休みさせていただきます。



**OLYMPUS**

(人から発想します。オリンパス)



シャンパンゴールドとブラックの、  
オリンパス ミュージックズーム105



105mmズームなのに、こんなに小さく美しい。

- 小型軽量38→105mmの3倍クラスズーム ● 生活防水
- 多彩なフラッシュ機能 ● パノラマ途中切り替え
- 高品位ハイブリッド非球面レンズ ● 視度調節機能
- 電池寿命を20%改善 “ダブルステップ・アップコンバータ方式” 採用

**μ[mju:] ZOOM 105**

希望小売価格(税別) シャンパンゴールド/ブラック ¥52,000 (リモコン・フタケース・ストラップ付)

エレガントな、スモール・ビューティ。  
**誕生。**

**SIGMA**

この風景、この1本。



APO ZOOM MACRO 70-300mm F4-5.6

# APO Zoom Macro Lenses

ロングで撮るか、接写で狙うか。マクロ機能搭載の望遠ズーム。

**APO ZOOM MACRO 70-300mm F4-5.6**

中望遠から超望遠までカバーする高倍率望遠ズーム。300mm時には1:2の本格的マクロ撮影が可能です。SLD(特殊低分散)ガラスの採用により、色収差を徹底的に除去しました。

- AF・MF希望小売価格(税別): 55,000円
- <シグマSA用、キャノンAF用は60,000円> ケース・フード付

**APO ZOOM MACRO 70-210mm F3.5-4.5**

ピント合わせも楽なF3.5の明るさで、しかも倍率1:2のマクロ撮影を可能にした望遠ズーム。優れた操作性、色収差を抑えた鮮明な画像。フィールド撮影や旅行などに最適な1本です。

- AF・MF希望小売価格(税別): 55,000円
- <シグマSA用、キャノンAF用は60,000円> ケース・フード付



APO ZOOM MACRO 70-210mm F3.5-4.5

お問い合わせはお気軽に、株式会社シグマ 〒201 東京都江崎市岩戸南2-3-15 tel. 03(3480)1431まで。

**PENTAX**



TIPA “ザ・ベスト・コンパクトカメラ” オブ・ザ・イヤー’96-’97受賞



EISA “ヨーロッパカメラ” オブ・ザ・イヤー’96-’97受賞



TIPA “ザ・ベスト一眼レフカメラ” オブ・ザ・イヤー’96-’97受賞



世界最小最軽量 3倍ズーム

**ESPIO 115M**

希望小売価格(税別) 52,000円  
※全ての3倍ズームカメラの中で世界最小最軽量。9月1日現在。



ダイヤル式世界最小 超軽量AF一眼

**MZ-5**

ボディ(ブラック/シルバー).....希望小売価格(税別) 73,000円  
FAズーム28~70/4AL付.....希望小売価格(税別) 103,000円  
※レンズ交換式35mmAF一眼レフカメラの中で世界最小。9月1日現在。

# ヨーロッパ2大カメラ賞受賞

●カタログのご請求は、〒100 東京都千代田区永田町1-11-1 ペンタックス販売株式会社宣伝部まで機種を明記の上ハガキでお申し込みください。  
旭光学工業株式会社・ペンタックス販売株式会社



佳作 (20名) 賞金1万円と楯



入賞 (300名) 記念品と楯

- 北海道
  - 渡辺雅俊(札幌市)「なまよし」
  - 進藤幸義(札幌市)「ママはおいしい」
  - 坂田 収(札幌市)「ナイスキック」
  - 角谷崇一(札幌市)「ほくも乗せて」
  - 古平文男(札幌市)「3人姉弟」
  - 小川幹彦(小樽市)「可愛く撮ってね」
  - 田中なおみ(若見沢市)「砂、取って!!」
  - 高藤辰也(帯広市)「絵本にお話してネ!!」
  - 遠藤 清(旭川市)「きれなお話して」
- 青森県
  - 八木橋 友紀子(南津軽郡)「早く焼けないかな!」
  - 三浦正勝(南津軽郡)「ともだち」
- 岩手県
  - 千葉守保(胆沢郡)「すみつけ祭の兄弟」
  - 小畑一弘(一関市)「恥じらい」
  - 藤枝由男(盛岡市)「仲よし兄弟」
- 宮城県
  - 阿部志志(仙台市)「無題」
- 新潟県
  - 井越 茂(中蒲原郡)「ほくの夏」
  - 三巻真理子(三条市)「いもほり」
- 富山県
  - 東 敷(富山県)「バイクに乗ってうれいな〜」
  - 畑中仁志(富山県)「チューして」
  - 烟田 恵(富山県)「今日からお姉ちゃん」
  - 村井弘真(富山県)「働かないで〜ママの部屋さん〜」
  - 若田 晶(富山県)「アイドルのポーズ」
  - 高山昭子(新湊市)「風船もらったの」
  - 若林智子(婦負郡)「ナイス ショット!!」
  - 神原直美(中新川郡)「ちゃんとしてね」
  - 坂下泰雄(砺波市)「わいわい遊ぼう」
  - 坂本 守(魚津市)「ほくもねむいよ〜」
- 茨城県
  - 齊藤貴生(取手市)「イ〜ヤ〜!!」
  - 川岸 毅(取手市)「子供ホームレス?」
- 千葉県
  - 谷田川守久(成田市)「にらめっこ」
  - 秋山晴一(成田市)「わたしの妹よ!!」
  - 中村法子(市原市)「真夏の午後」
  - 田島恒哉(市原市)「僕4才」
  - 名取重雄(四街道市)「わぁ、むたいヨー」
  - 津川隆一(茂原市)「小春日和」
  - 小林広明(船橋市)「気持ちいい不思議」
  - 中島高夫(木更津市)「自然のすべりだい」
- 群馬県
  - 松沼康夫(小山市)「わが家のなと花」
- 埼玉県
  - 下達夫(桐生市)「負けるものか」
  - 河合康二(太田市)「わたしの少女」
  - 正田孝夫(新田郡)「飛んだ!!」
- 埼玉県
  - 金澤直子(大宮市)「夢みごろ」
  - 西浦良一(大宮市)「てんとう虫見つけた」
  - 安川 孝(上尾市)「ミニS」
  - 岩出容子(上尾市)「世話役」
  - 今枝 進(浦和市)「上手に撮れたかな」
  - 河内敏行(浦和市)「抱っこしてあげる」
  - 徳長有理(川越市)「水遊び」
  - 阿部 孝(鶴ヶ島市)「楽しいお風呂」
  - 富沢 宏(入間市)「かしゃいちゃった」
  - 島田晴美(深谷市)「私の顔の方がすごい!!」
- 東京都
  - 本村志之(練馬区)「シャワー」
  - 余語えりか(港区)「ポーズ」
  - 小野智子(町田市)「祭りの日」
  - 橋本昌利(日野市)「はしゃく子」
  - 中西定夫(瑞穂町)「熱戦」
- 東京都
  - 林 志雄(昭島市)「カブツ」
  - 神奈川県
    - 荒井年男(横浜市)「始めて持った亀」
    - 佐々木樹(横浜市)「泣くお祭りの子」
    - 藍野利幸(横浜市)「アイスクリーム」
    - 加藤正夫(横浜市)「ザリガニ」
    - 大野太朗(相模原市)「バタ足」
    - 古谷忠昭(足柄上郡)「ピース」
    - 川島晴子(大和市)「カルガモが来た!来た!」
  - 長野県
    - 北原尚美(飯田市)「がぶりっ」
    - 金田和子(飯田市)「だ〜っ」と「べ〜っ」
    - 中込勝彦(長野市)「あのく〜」
    - 宮野 勇(長野市)「行くよ」
    - 塚本静子(松本市)「モンゴルの兄妹」
    - 角南俊文(松本市)「キャ〜ッ!」
    - 吉田都彦(上水内郡)「初めての夏休み」
    - 柳澤正隆(北佐田郡)「なまよし」
    - 宮原俊雄(上田市)「お手伝い」
  - 静岡県
    - 上田茂穂(静岡市)「カレーの日」
    - 藤沢勝行(静岡市)「カニさんあそぼ〜」
    - 坂田のこ(浜名郡)「パン作り」
    - 大石哲久(浜松市)「気分はピアニスト」
    - 山田卓司(浜松市)「草笛鳴るかな」
    - 酒井光江(清水市)「アーン」
  - 石川県
    - 石川 真(河北郡)「泥水の水王様」
    - 田辺 智(金沢市)「すいか」
    - 前田桂子(小松市)「熟睡」
  - 福井県
    - 中場幹夫(坂井郡)「放さないでね〜!!」
  - 愛知県
    - 三村昭一(西尾市)「夏の日」
  - 三重県
    - 大橋朋子(鈴鹿市)「ワイ、冷たいゾ!」
    - 桐生 均(鈴鹿市)「晴姿」
    - 石田芳彦(鈴鹿市)「花娘」
    - 木下良一(鈴鹿市)「暴走族」
    - 長井俊彦(鈴鹿市)「らくちん、らくちん」
    - 清水真実(四日市市)「我家の夏休み」
    - 古川 晋(四日市市)「何見えんの」
    - 村山忠夫(四日市市)「ハハ、ボクは寝てまっ〜」
    - 伊藤洋子(四日市市)「誰かいっしょに寝ませんか」
    - 加藤 美(四日市市)「急流」
    - 坂口千恵(四日市市)「味見」
    - 今西久美子(四日市市)「これなあに〜」
    - 河原喜子(伊勢市)「何して遊ぼうかな」
    - 河原三雄(伊勢市)「じいちゃん〜」
    - 馬場美由紀(津市)「こっち 楽しい」
    - 小山信久(桑名市)「いいお顔?」
    - 山本鶴子(桑名市)「ハイ!元氣」
    - 野呂高生(度会郡)「怖い」
  - 滋賀県
    - 田村良兵(甲賀郡)「箱入り息子」
  - 京都府
    - 戸田 哲(京都市)「戯れ」
    - 森川宗彦(京都市)「ひとり旅」
    - 岡本光弘(京都市)「みえるかな」
    - 小水隆雄(京都市)「どう にあう?」
    - 河野 賢(岡崎市)「がんばる!」
  - 大阪府
    - 堀井勇二(大阪市)「祭りの日」
    - 後藤明子(大阪市)「このくれないよ」
    - 中西香栄(大阪市)「初めての水遊び」
    - 西川容子(東大阪市)「どうしたの?」
    - 津村伸子(東大阪市)「しかられて」
    - 福田 孝(八尾市)「おひるな(おむいよ)」
  - 奈良県
    - 藤本賢之(八尾市)「水飲み小僧」
    - 総野玲子(八尾市)「急流下り」
    - 玉邑猛志(八尾市)「ゴールを目指せ」
    - 中村光雄(堺市)「いそ〜」
    - 中田 鉄(堺市)「水遊び」
    - 山田 敏(堺市)「おもちゃ屋にて」
    - 山本まみ子(堺市)「あ〜 あれはラクかな?」
    - 高野博一(堺市)「仲よし」
    - 川妻厚子(堺市)「上手になった?」
    - 小川裕子(堺市)「旋律」
    - 戸口和治(阪南市)「シャボン玉 きれいだなぁ」
    - 橋野 晃(泉佐野市)「アレ〜?」
    - 古川栄次郎(守口市)「チビッ子の豆腐防士」
    - 矢野隆一(吹田市)「電車」
  - 奈良県
    - 橋本伸枝(北葛城郡)「お兄ちゃんをやっつけ!!」
    - 川井京子(北葛城郡)「祭りの日」
    - 山本省二(北葛城郡)「朝のあいさつ」
    - 徳永 稔(北葛城郡)「夏の思い出」
    - 上塚雅子(奈良市)「理科実験教室 あっ!」
  - 兵庫県
    - 橋本伸枝(北葛城郡)「お兄ちゃんをやっつけ!!」
    - 山本省二(北葛城郡)「朝のあいさつ」
    - 徳永 稔(北葛城郡)「夏の思い出」
    - 上塚雅子(奈良市)「理科実験教室 あっ!」
  - 兵庫県
    - 三藤正行(尾道市)「ロクと私」
    - 山田弓恵(尾道市)「ドキッ!ドキッ!」
    - 児玉万智子(尾道市)「これ、なに〜!!」
    - 植永義治(世羅郡)「どろんこ田植」
    - 松岡正明(深安郡)「流れの中で」
  - 鳥取県
    - 額家文忠(益田市)「泥んこ少年」
    - 大崎桂子(益田市)「私、袋に入っちゃった!」
    - 岩崎フミエ(益田市)「まだぬちゃダメ!」
    - 小川裕美(松江市)「七夕祭り」
    - 高橋宣幸(松江市)「行水」
    - 吉田 進(八束郡)「おちゃめな二人」
    - 柳浦 博(八束郡)「里帰り」
    - 猿渡政幸(平田市)「夏休み」
    - 佐藤正美(福山市)「記念写真」
    - 常松利理(出雲市)「やっつけ〜!!」
  - 鳥取県
    - 藤原 昇(鳥取市)「はやく切って〜」
    - 岡田光則(鳥取市)「緑日」
    - 谷川小百合(鳥取市)「何匹取れた?」
    - 古安宣夫(米子市)「無題」
    - 松原一行(米子市)「無心」
    - 田中真子(倉吉市)「きゅきゅきゅきゅ」
    - 松岡千枝美(八頭郡)「待って待って!!」
  - 山口県
    - 佐藤隆雄(山口市)「ほくお祭りに参加」
    - 伊藤春夫(山口市)「まだかな〜」
    - 長富伸司(山口市)「トンボ こい〜」
    - 豊田博美(山口市)「わが家のミッキー」
    - 富田二(山口市)「イチ、ニ、ン、サン、ダン!!」
    - 佐伯昭夫(山口市)「お勉強会」
    - 有馬わかば(徳山市)「涼しいかあ〜」
    - 村山邦孝(徳山市)「私達 似た者どうし?」
    - 仲田正治(宇布市)「かっこいい!!」
    - 福田 勝(下関市)「笑顔」
    - 永尾博美(新南陽市)「盛夏の盛り上がり」
    - 安澤忠夫(防府市)「むしあぶりつ」
  - 香川県
    - 三好博子(高松市)「なにくそ」
    - 西山英治(高松市)「雨、大好き」
    - 武田浩二(大川郡)「暑い日」
    - 安芸繁美(大川郡)「ある夏の夜」
    - 安芸真美(大川郡)「水遊び」
    - 岡野 順(仲多度郡)「おやすみ、タイム」
  - 徳島県
    - 浅野悦也(徳島市)「初めての笑顔」
    - 栗田ふさ(徳島市)「あ〜あ〜」
    - 原 博子(徳島市)「七五三きれいなるよ」
    - 加藤昌左(徳島市)「かわいいでしょ」
    - 泉 洋子(徳島市)「姉妹」
    - 坂林里香(板野郡)「一寸法師」
    - 村川浩一(板野郡)「ハトさん食べたよ」
    - 磐崎恭子(鳴門市)「子犬とたむけ」
    - 白崎美智夫(鳴門市)「晴れ舞台」
    - 山田勝二(小松島市)「トップバッター」
  - 高知県
    - 橋本和子(高知市)「仲よし」
    - 酒井良昌(高知市)「初対面」
    - 中島誠美(高知市)「チュウ」
    - 濱口 満(高知市)「二人で一緒に」
    - 齊内美智代(高知市)「ごはん大好き」
    - メル レンビアイネン(宿毛市)「洗うよ」
    - 杉野節子(吾川郡)「雨がかり」
    - 田中美鈴(土佐清水市)「ちょっとしつれい」
  - 愛媛県
    - 水沼容子(八幡浜市)「水がかかったよ」
    - 松村吉三郎(八幡浜市)「どろんこ美人」
  - 福岡県
    - 小坂信生(八幡市)「大人型の病気で退院の前です」
    - 能田昭男(松山市)「チビッ子ギャル達 繰り出し」
    - 堀内八祐(松山市)「私のポストよ!!」
  - 福岡県
    - 小野 剛(北九州市)「風あげ」
    - 岡村栄昌(北九州市)「そーれ御興だ」
    - 白濱昭治(北九州市)「落葉拾い」
    - 井上高太郎(北九州市)「視線がバラバラ」
    - 藤野昌隆(北九州市)「祭りの日」
    - 松本洋子(福岡市)「夏祭り ゆかたでジュウッ!!」
    - 林 幸司(福岡市)「ガッツで回せ」
    - 大庭隆志(福岡市)「出番前」
    - 吉村匡昭(福岡市)「楽しい夏」
    - 室伏千鶴(福岡市)「初めての温泉」
    - 高木フキ子(福岡市)「父と子」
    - 松尾温博(福岡市)「ほくお祭りに参加」
    - 斎藤隆幸(福岡市)「ほくお祭りに参加」
    - 内田浩哉(福岡市)「チビッコ消防団」
    - 益田恵美(福岡市)「オフロ大好き」
    - 谷川小百合(福岡市)「助けてちょうだい」
    - 原田理恵子(粕屋郡)「大空へ!!」
    - 藤家聖典(築上郡)「お兄ちゃん」
    - 北原直美(築上郡)「ホールあそびで寝たな〜」
    - 藤田和枝(大野城市)「まつりの子」
    - 井上江利子(大野城市)「僕のマシン」
    - 池田美香(宗像市)「じゃましないで!!」
    - 花田真夫(宗像市)「仲よし」
    - 高橋貞子(春日市)「清めの折り」
    - 黒木千穂(春日市)「立ち読み」
    - 安部武彦(春日市)「無題」
    - 田原勝士(太宰府市)「楽しい取り入れ」
    - 黒い瞳の少年」
  - 福岡県
    - 藤田訓子(太宰府市)「寝転んで楽しいね」
    - 重岡 護(中間市)「祭りの日」
    - 満原和幸(久留米市)「家族で田植」
    - 堤 清二(三池郡)「ほくの足がおじさん」
  - 大分県
    - 岡田慎二(大分市)「水、大好き」
    - 長谷部 峰生(大分市)「あ〜こい〜」
    - 司城小百合(中津市)「雨よふれ」
  - 長崎県
    - 吉田誠子(佐世保市)「坐禅」
    - 田端和光(佐世保市)「水あそび」
    - 加藤登紀子(佐世保市)「みんなでおフロ」
    - 木村正男(佐世保市)「釣れた〜!!」
    - 内田秋美(長崎県)「おいしい」
    - 辻 清一(長崎県)「まて〜!!」
    - 豊島 毅(長崎県)「仲よし」
  - 熊本県
    - 柏木 優(熊本市)「そよ風に吹かれて」
    - 黒瀬俊児(熊本市)「ミニプールの子供たち」
    - 水島昌信(熊本市)「水遊び」
    - 斎藤 優(熊本市)「勇姿」
    - 古内民夫(下益城郡)「にがい」
    - 丸山正昭(尾尾市)「こども消防隊演技」
    - 龍崎きよ子(玉名市)「シンクロナイズドスイミング」
  - 宮崎県
    - 永野 忠(宮崎市)「早春」
    - 鶴田まゆみ(宮崎市)「どっちが大きい?」
    - 守田陽子(児湯郡)「どろんこの子供」
    - 飛鳥井花登(都城市)「おてつだい」
  - 鹿児島県
    - 鹿嶋島 本村伸二(始良郡)「私の晴姿」
  - 沖縄県
    - 松本靖文(那覇市)「なまよし」
    - 上原幸信(那覇市)「なまよし」
    - 大城 稔(豊後市)「暑い日」
    - 秋元ナナ(浦添市)「うわぁ〜ん」

フジカラー 第4回チビッコ写真コンテスト

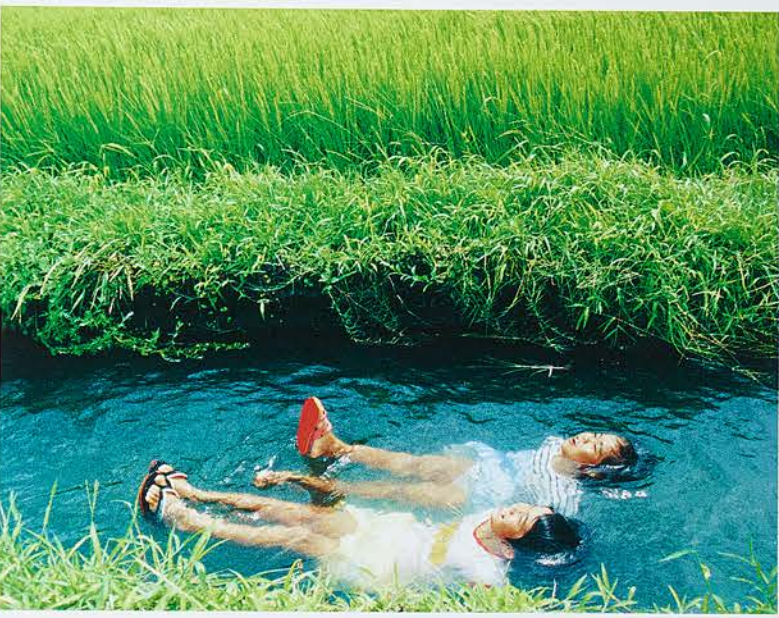
主催:カメラのキタムラ  
協賛:富士写真フイルム株式会社

応募総数 約8,500点 入選作品発表!!

「第4回チビッコ写真コンテスト」にたくさんのご応募ありがとうございました。8,500点を上回る応募総数の中から見事に入選された方々をここに発表させていただきます。

総評 今回の多く作品が寄せられ、それぞれ皆愛情にあふれていてほほえましく、選ぶのに大変苦労しました。全体に子供の自然な動きが良くとらえられ、見ていてホロリとさせられるもの、ほのぼのとした雰囲気のもの、思わず吹き出ししてしまうようなものなど、一枚一枚から笑い声や泣き声が聞こえてきそうなほど、子供たちの気持ちが素直に表現されています。

審査員 沼田 早苗さん  
プロフィール:大竹省スタジオの助手を経て、78年フリーランスとなり、個展「男の素顔」を全国で開催。86年、「ほくのおじちゃんのかお」を出版、個展「私の写真録-PART3」を開催、雑誌「ラ・セーヌ」「朝」「財界」などに連載。94年、個展「私の写真録-PART4」を開催。



「遊泳中」橋本秀夫(福岡県中間市)  
寸評 きれいな小川の中に浸り、強い日差しを浴びながら青空を見ている二人の女の子の、夏の自然を体全体で感じている様子がよくとらえられています。画面も良く整理された作品です。

最優秀賞 (5名) 賞金5万円と楯



「まあ〜きれい〜」佐藤善隆(宮城県仙台市)  
首をかしげて小さな手で七夕飾りに触れている女の子と、まわりの風景をバランスよくとらえています。



「ゴール」吉海玄左(千葉県市原市)  
見守る大人たちも思わずほほえむほど、四人の子全員がバンザイしているのがユーモラスな作品です。



「泥んこの魚取り」黒木 堅(宮城県向日市)  
泥だらけの男の子たちが、捕まえた魚にはおぼろげに、うれしそうな表情が良く出ています。

優秀賞 (10名) 賞金3万円と楯



「歌自慢」紺谷静司(北海道苫小牧市)  
「夏の日」森田和雄(埼玉県坂戸市)  
「仲よし」大熊政彦(長野県飯山市)



「はくの大作」小室三喜雄(東京都足立区)  
「スイカ 食べます!」大野一彦(愛媛県松山市)



「祭りの子供」堀 賢一(福岡県久留米市)



# 三脚特集

# SLIK

## <エイブル300シリーズ>

多様なプロの要求に応え、脚を簡単に伸縮・固定できるロックノブ式を採用し、アマチュアにも使いやすい多目的三脚。人気の高い200ミリ級ズームやマクロ付き一眼レフ、標準レンズ付き中判カメラ向け。3段階に開脚角度が変えられ、人物・花・風景などあらゆるモチーフに合わせたアングルが楽に得られます。



### ■エイブル 300 DX 雲台

手軽なクイックシュー式で、カメラの取付け方向もタテ・ヨコ自由に変えます。使いやすい2ハンドルの3ウェイ雲台です。  
カメラ台:50×60mm 高さ:100mm 質量:650g



### ■エイブル 300 ST 雲台

カメラ取付けがダブルナット式のコンパクトな3ウェイ雲台。どの方向にも自由自在に動かせ、あらゆるアングルを楽に作り出せます。  
カメラ台:50×65mm 高さ:95mm 質量:550g

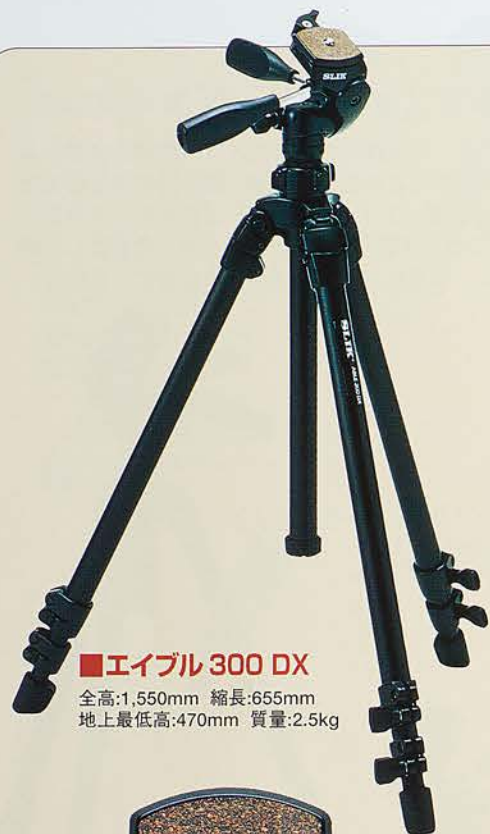


### ■AF2100

グリップを握るとフリーに、離せばロックします。片手で簡単に操作できる、AFカメラに最適なグリップ式自由雲台です。  
カメラ台直径:55mm 高さ:140mm 質量:870g

## <雲台の区分について>

- 3ウェイ雲台 タテ位置、ヨコ位置、上下左右の動きを別々に調整可能。初めて扱う人でも思ったところへ的確にレンズを向けられます。水平出しが楽で、大・中判カメラや望遠レンズ、マクロレンズでの撮影に適しています。
- フリーターン雲台 バンハンドル1本だけで操作でき、カメラ台のみの回転も可能なスリック独自の雲台。動きの速いスポーツ、野鳥の観察・撮影、報道写真に最適。またつなぎ写真や流し撮りを必要とする、山岳や鉄道の撮影にも有効です。
- 自由雲台 一カ所のレバーやノブを緩める、または締めるだけで、カメラはタテ・ヨコ・ナナメに自由に動き、締めれば確実に固定します。手持ち感覚で使える雲台です。



### ■エイブル 300 DX

全高:1,550mm 縮長:655mm  
地上最低高:470mm 質量:2.5kg



### ■エイブル300 DX用クイックシュー

直接カメラに接合するカメラ台部分のみを雲台から取りはずせるので、カメラを素早く装着ができます。

## <プロフェッショナルIIシリーズ>

風景写真などでの超望遠レンズや大・中判カメラの使用にも耐えられる安定性・耐久性を備えた三脚。脚には溝を入れることで伸縮時の空回りを防いでいます。エレベーターの不用意な落下を防ぐウォームギアや、カメラ台の水平位置を確認できる水準器なども装備。プロフェッショナルIIは、脚の長さを揃えやすい目盛り入り。(アクトを除く)

### ■プロフェッショナルII-アクト

全高:1,340mm 縮長:620mm  
地上最低高:360mm 質量:4.15kg



### ■プロフェッショナルII

全高:1,830mm 縮長:810mm  
地上最低高:585mm 質量:4.7kg

### ■プロフェッショナルII用雲台受

プロフェッショナルIIは、既存のエレベーターをオプションの雲台受に差し替えると、一層のローアングル撮影が可能となります。



## <エレベーターについて>

三脚はエレベーターによって雲台の昇降を行ない、カメラの高さを調節します。プロフェッショナルIIでは、エレベーターの不用意な落下を防止するウォームギアを採用。一度設定した高さにはしっかりと雲台を固定できるようになっています。また、脚を開いて低いポジションでの撮影を行なう場合、既存のエレベーターでは地面につかえてしまうので、短い雲台受(別売)に差し替える必要があります。

# 三脚特集

便利な機能で豊かな写真表現を可能にしてくれる「三脚」。今回は、より良い作品作りに欠かせない三脚を特集しました。



### ■エイブル 300 ST

全高:1,545mm 縮長:650mm  
地上最低高:465mm 質量:2.4kg

三脚を自在に使いこなせば、表現意図に応じて絞りやシャッタースピードをどのような組み合わせにも設定することができます。速いシャッターを切れば、肉眼ではとらえることのできない、瞬間の映像をとらえることができ、遅いシャッターを使えば、動いているものをブラして写せます。三脚は写真表現の幅を広げ、奥行きを深め、写真表現上不可欠の道具なのです。

三脚の役割をひとこといえば「機材の安定保持」です。カメラを安定した状態に保ち続けることができるので、段階露光を与えて適正露出を探る時も、ブレミングを少しも変えずに幾コマも撮影し続けられます。たとえ薄暮・早朝・夜間でも撮影が可能になります。また三脚を使うと、構図が正確に決められます。そしてビントの微妙なヤマをつかめます。さらに長時間シャッターチャンスが待たれたり、撮影者自身を画面に入れることも容易になります。大判カメラでも使え、望遠レンズやマクロレンズも自在に活用できます。

三脚の脚を伸ばす時は太いパイプから、短くする時は逆に細いパイプから伸ばします。つまり三脚を使用する際には、太いパイプを優先するのが原則です。これを守ることが、三脚をガツツリ、安定させて使うことができるのです。「どのパイプでもいいから適当に伸ばす」というやり方は感心できません。ミドルアングルやローアングルで全部伸ばす必要のない時は、下段の細いパイプを伸ばして使います。太いパイプから順々に各節を伸ばし切って使うようにすると、二本の脚の長さはおのずから揃います。こうすれば三脚を握る場所さえ平らなら、カメラは傾かずにつまみすく立てられます。

三脚の脚は開き切って使用する。三脚を使う時の基本は、まず脚の角度をできる限り開き切って使用することです。脚を開き切って立てると、三脚が作る底面積が広くなって安定します。少々力を加えても開き角度が変わらないので、三脚そのものが動きにくくなり、しっかりと立ちます。逆に脚を広げ切らず、すぼみ気味に立てると底面積が狭くなります。そうすると使用中に脚が動いてしまい、カメラの位置が変わってしまう恐れがあります。さらに極端にすぼみ立てると、非常に不安定で転倒すらしかねません。

三脚を使用する際は以上のようなことに注意して、より良い作品を残すために、正しく効果的な使い方を心がけてください。

三脚にカメラを据えつける頭の部分を雲台といいます。エレベーターとは雲台の昇降装置のことで、目的に応じてカメラを上げたり下げたりしてポジションを調整するためのものです。ファインダーを覗いて「少し下げよう」「もう少し上げよう」と感じた時、その意を受けてすぐに上げ下げできないと、エレベーターを備えている意味がありません。そこでエレベーターを使用するコツとしては、あらかじめ雲台を基本位置より10cmくらい上げてセットしておくというように。こうすると、ファインダーを覗いてカメラポジションを動かしたいと思った時に即応できます。それからもうひとつ、上げておいた方がよい理由があります。カメラをタテ位置で使う時にエレベーターを上げておけば、クランクなど三脚の一部がカメラボディとぶつかり合うのを防ぎ、三脚を意のままに使いこなすことができるからです。

たい時は、上の太いパイプの伸縮により調整します。上の段の方が手が届きやすく、操作が楽だからです。「細いパイプから短くする」のが原則でも、全部のパイプを伸ばして使っている時に、最下段で調整しようとする、いちいち身をかがめての操作となってしまう、くいでしょう。だから太いパイプの伸縮操作は、三脚の傾き調整の時だけと心得ておいてください。

**エレベーターはあらかじめ上げてセットする**



# 三脚特集

## ■500G III

アルミとプラスチックを素材としたコンパクトタイプの軽量三脚。短くたたんで持ち運びができるので、旅行時の記念写真撮影などに便利です。カメラ台を起こして即座にタテ・ヨコのカメラ位置変更が可能な雲台を採用。

全高:1,150mm 縮長:400mm  
質量:0.58kg



## ■スナップマンSP

持ち運びに便利な軽量のコンパクトタイプで、ふかん撮影にも対応します。スナップ感覚で使える自由雲台を採用。脚ロックもエレベーターの上下ロックもレバー式なので、簡単に確実に使用できる三脚です。

全高:1,270mm 縮長:440mm  
質量:0.8kg



# SLIK

写真と映像の技術をサポートし、  
新たな表現の可能性を提案し続けるスリック

## スリック株式会社

スリック(株)は、1956年にカメラ用三脚を主要製品とするメーカー、スリック・エレベーター三脚(株)として設立されました。以後30年以上にわたり、「すみずみにまで神経が行き届いた高機能・高品位」をプロダクトコンセプトに、多様な分野で撮影を手がけるプロカメラマンの厳しい要求に応えるとともに、こうしたプロマーケットで培われた技術を活かし、写真を楽しむ幅広いユーザーに向けて、バリエーション豊かな製品を提供し続けています。

その製品のひとつ「マスターデラックス」が、三脚として初めてグッドデザイン賞を受賞したのに続き、その後も業界最多の8機種でこの賞を受賞するなど、スリック製品は多くの分野において高い評価を得ています。

そして現在は、30アイテムを超えるカメラ用三脚以外に、ビデオ用三脚、BSチューナー用三脚、各種通信システムの周辺機器などにも製品領域を広げています。

## ■グラフィックテープ

接着剤を使用せず、簡単に巻き付けや取りはずしが可能です。全部で5種類のカラーがあり、ファッション性にも優れています。



### <グラフィックテープとは>

グラフィックテープを三脚の脚に巻き付けることにより、気温が低い日でも、触った時に冷たさを感じさせず、手を保護してくれます。また撮影時に光の反射を防いだり、自分の三脚を他のものと識別できるという効用もあります。

## ■Y型支持具

望遠レンズを支えて撮影時のブレを防ぐ器具。機動性を損なわずに望遠撮影が行なえます。

横:50mm 幅:115mm 高さ:105mm  
質量:0.22kg



## <Uシリーズ>

操作は横開き大型レバー式で、脚も三本連動して開閉するので、ファインダーを覗きながら手軽に高さや傾きを調節でき、初心者にも使いやすい三脚。プラスチック樹脂のギアの採用により、エレベーターの作動が静かで滑らか、携帯性にも優れています。タテヨコどちらの位置にも対応できるクイックシュー式。

## ■U8000

全高:1,500mm 縮長:590mm  
質量:1.5kg



## ■U9000

全高:1,500mm 縮長:590mm  
質量:1.6kg



## <グランドマスターシリーズ>

300ミリクラスレンズ搭載の35ミリカメラや中判カメラによる、草花・スポーツなどの撮影に最適。脚の締付力を好みで加減できるナット式。上下・左右・タテヨコがそれぞれ別々に調整できる「3ウェイ雲台」や、カメラをタテ位置にした時もぐらつかない、スリック独自の「カメラ背当て」を採用。

## ■グランドマスタースポーツブラック

全高:1,400mm 縮長:710mm  
地上最低高:330mm 質量:3.3kg



## ■グランドマスタースポーツアクト

全高:1,300mm 縮長:600mm  
地上最低高:320mm 質量:3.06kg

## <一脚とは>

三脚よりも軽くコンパクトでスペースをとらず、カメラの質量を支えられる一脚。上下ブレを防げるので微妙なピント合わせやスローシャッターも可能にし、長い間撮影しても疲れにくいという利点があります。

## ■ハンディポッドII

200ミリまでのレンズを装着した、一眼レフカメラを支えるのに適した一脚です。脚は5段式でコンパクトにたためます。

全高:1,550mm 縮長:520mm  
質量:0.58kg



## ■ザ プロポッドスポーツ

超望遠レンズ・中判カメラ向けの一脚。必要に応じて雲台を組み合わせて使用できます。脚は4段式でコンパクトにたためます。

全高:1,600mm 縮長:540mm  
質量:0.78kg





# 三脚特集

ただいま、キタムラ特別価格で販売中!

# Velbon

## <プロフェッショナルシリーズ>

強い衝撃や荷重にも耐えられるように、各部品には「重力鋳造アルミ合金」を使用。多様な特殊機能で高機能・高品質にこだわるプロフェッショナルの要望にも応えます。



■Mark-7D

35mm超望遠レンズや大判カメラの使用に適した大型雲台を装備。耐久性と機能性をさらに高めたプロ仕様の三脚です。  
全高:1,930mm 縮長:820mm  
地上最低高:520mm 質量:5.08kg



■Mark-7 MINI

強固なMark-7D 本体を短縮したミニタイプで、大型カメラのローアングル、接写などに威力を発揮します。  
全高:760mm 縮長:420mm  
地上最低高:320mm 質量:3.0kg



■Mup-4

脚部はマーク7Dと同仕様の丸パイプを使用した一脚タイプ。間接部分のガタつきを防ぐ内部機構になっています。  
全高:1,570mm 縮長:500mm  
質量:0.84kg

## <エースシリーズ>

三脚の基本であるカメラの完全保持、ブレの防止を高次元で実現。1ストップ2ハンドル方式の雲台などにより、スピーディーで確実なセットアップができます。



■スーパーエース

中判カメラまでの使用に耐える本格的なプロ指向の三脚。多彩なニーズに対応し、安定性・操作性も抜群です。



■フィールドエース

大型の開脚調整ノブにより、3ステップの開脚がスムーズに行なえる多機能三脚。接写・複写などにも最適です。

三脚は、不整地やローアングルから狙う草花の接写などにも最適です。



# Velbon

きめ細かく的確な製品づくりでユーザーのニーズに応えるベルボン

日本ベルボン精機工業株式会社  
ベルボン商事株式会社

「ベルボンの名称を冠している以上、手抜きのない完璧な製品を提供する」ことをモットーに、ベルボンは三脚メーカーとして40年の歴史を有します。

現在製造・販売されている三脚は、ここに挙げた以外にもオールメタルタイプのXシリーズ、スムーズな操作性を誇るZシリーズ、様々な撮影シーンに対応するメニーフังก์ションシリーズ、軽さを極めたスタンダードタイプのCXシリーズ、記念写真や旅行などでの携帯に便利なコンパクトシリーズのほか、ビデオカメラ対応のビデオシリーズなど広範囲にわたって充実が図られています。またバッグ、ショルダーカートといったアウトドアグッズにも製品領域を広げています。

そして今後もユーザーの要望に的確に応えた製品づくりを目指しています。

世界初のカーボン&マグネシウム 両期的な軽さと強さを実現した

## <カルマーニュシリーズ>

脚パイプに使用したカーボンファイバーは、繊維を縦横に織り重ねた7層構造のフルカーボン材を使用し、脚接合部を全段拡管することにより下段のパイプを太く設定することに成功。また本体基台部に使用したマグネシウムは実用金属中最も軽い材料です。振動吸収性や温度変化に対する安定度も抜群。



■カルマーニュ640

最低地上高15cmから全高152cmまでをカバー、3ステップに開脚するフルアングル4段三脚。センターボールが2分割でき、ローアングル撮影も容易です。  
全高:1,520mm 縮長:450mm  
地上最低高:150mm 質量:1.3kg

## 雲台組み合わせ例

三脚は、撮影内容に合わせて自由に雲台を組み替えることが可能です。



■カルマーニュ640+ W/PH-163HA

全高:1,630mm 縮長:520mm 質量:1.7kg



■カルマーニュ640+ W/PH-360

全高:1,650mm 縮長:575mm 質量:2.3kg

■カルマーニュCUP-40

640と同仕様のカーボンファイバー製一脚。振動吸収性に優れ、堅牢かつ軽量な4段モノポッドです。  
全高:1,530mm 縮長:490mm  
質量:0.39kg



## <マグネシウム採用超軽量クイックシュー>



■QRA-635

三脚とカメラの取付けがワンタッチ。どの三脚にも装着可能な超軽量クイックシュー。  
横:103mm × 縦:57mm × 高さ:20mm 重量:120g

## <チェイサーシリーズ>

カメラの着脱がしやすく、常に楽な姿勢でファインダーを覗ける雲台を採用。35mm一眼レフカメラをベストポジションでサポートします。



■スーパーチェイサー

スピーディーに撮影のベストポジションをキャッチ。高い伸縮性と安定性を実現したスタンダードタイプの3段三脚。  
全高:1,520mm 縮長:450mm 地上最低高:150mm 質量:1.3kg

■マウンテンチェイサー

接写から望遠撮影まで、広いニーズに対応する4段三脚。世界初のS・R・C方式採用で、ローアングルからハイアングルまで幅広いポジションをカバーします。

全高:1,410mm 縮長:500mm  
地上最低高:260mm 質量:2.1kg



●S・R・C方式

ギアエレベーターを2分割する世界初的方式。ローコラムを外すことで26cmのローアングルが、またアップコラムで6cmのエレベーター昇降が可能です。



アップコラム  
ローコラム





# イオスは、未来と交感する。 EOS IX E (アイエックス E) 誕生。



- EFマウント採用。アドバンスドフォトシステム対応EOS。
- 機能からデザインされた超コンパクトボディ。
- 縦・横自在の視線入力3点AFシステム。
- 測距点連動6分割測光、夜景モードも新設して充実のAEモード。
- より高度なストロボ表現。E-TTL自動調光。
- カートリッジ途中交換(MRC)など、充実のIX機能。



新登場  
**Canon  
EOS  
IX E**

## 写友缶ふれあい広場

読者の皆様から寄せられた、お便り＆お写真をご紹介します。

### お便りコーナー

屋久島のヤクスギランド内で見つけた怪獣？ このコースを私も通過しましたが、小学4年生の娘には〇〇〇〇ザウルスのように見えたらしく、写真を撮ったようです。時には純真な心でファインダーを覗くことも必要だと思いました。 東川 敏一様 三重県安芸郡



※このコーナーに多数のご応募をいただき、ありがとうございました。今回はすべてのお便り・お写真をご紹介できませんでしたがご了承ください。

### フォトコーナー



長門峡の雪化粧です。今年の2月は10数年ぶりの大雪で、閑寂な白い渓谷美が楽しめます。 山崎 和夫様 山口県宇部市

「山のあいぎよつもの」息を切らしてやうと登った空沼岳の頂上。かわいらしい「えぞしまりす」が疲れをいやしてくれました。 山崎 正様 北海道札幌市

### お便り＆傑作写真大募集!

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送り先は、〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ「写友缶ふれあい広場」係まで。お便りは、ファックス番号045-476-0778でも受け付けております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構ですので、読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。(なお、応募作品の返却はいたしかねますのでご了承ください。)

### 編集後記

今回、特集ページにご登場をお願いした高橋真澄先生にお話を伺うため、我々編集スタッフは北海道まで取材の旅に。先生の撮影地である美瑛町は、作品で拝見した通りの素晴らしい風景で、ちょうど紅葉の季節だったこともあり、北海道ならではのスケールと美しさを満喫させていただきました。ところがこの後、まだ10月だというのに当地では初雪が降り、我々が乗る予定だった飛行機は欠航。思わぬところで足止めを食い、日本も意外と広いことを実感させられました。ところで、キタムラ恒例のフォトコンテストのひとつ、「第2回ベット・動物ふれあい写真コンテスト」の作品募集が12月中旬より開始されます。可愛いワンちゃんやネコちゃんの傑作写真が撮れましたら、キタムラ店頭のパスター・チラシをご覧になり、ふるってご応募ください。さて、次号は来年の3月1日発行となる春号。特集テーマは、お花見シーズンにふさわしい「宴」(うたげ)です。どうぞご期待ください。

【お詫びと訂正】前号の「フィルム特集」中の26ページで、「コダックエクタクローム E100S/100/400フィルム」とありますが、「コダックエクタクローム E100S/100フィルム」の誤りでした。ご迷惑をおかけしましたことをお詫びし、ここに訂正させていただきます。

### プレゼントが当たる!クロスワードパズル

1	ツ	2	3	4	ウ
5	ワ				C
6	ト				8
		9	ク		10
					11
					12
					13
					14
					ス
					ツ

＜ヨコのカギ＞

1. 今号の特集に登場した高橋真澄先生の撮影地。
2. 日本で伝統的に作られてきた紙です。
3. 赤ちゃんは大体、十月〇〇〇で生まれるといわれます。
4. 結婚指輪をはめるのはどの指?
5. カトリック教会で行なわれる祭式。
6. 伊豆大島で有名な春の花。寒〇〇〇〇というもあります。
7. 今、大人気の男性アイドル5人組。

写友缶クロスワードパズル(Vol.17) 解答とご当選者 解答:「アマヤドリ」

＜ご当選者＞ 中野 寛(北海道)、工藤可恵男(千葉県)、小林泰子(千葉県)、大川紗智子(東京都)、植竹征洋(埼玉県)、柏木貴美子(神奈川県)、増野知恵子(長野県)、石高博美(新潟県)、雲村和英(新潟県)、大沢清子(静岡県)、岡田清代子(静岡県)、大沢清子(静岡県)、高田 実(奈良県)、細田奈美(大阪府)、位田純子(兵庫県)、谷口真一(鳥取県)、齊田信夫(岡山県)、岡本史子(岡山県)、梶原博美(岡山県)、川上知朗(岡山県)、坂元利恵(岡山県)、能登寛明(広島県)、井上朝之(山口県)、浜崎香奈(高知県)、玉川由紀(愛媛県)、宇津美代子(愛媛県)、近藤昭治(福岡県)、原 雅(福岡県)、松浦健二(長崎県)、自見正治(大分県)、井口克寛(宮崎県) 敬称略

### 答え＝

〇〇〇〇〇〇  
(ヒント:冬の一大イベントです。)

問題:クロスワードに答えて、A～Eのマスをつなぐとある言葉になります。その答えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。あて先:〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ 写友缶「クロスワードパズル」係 締め切り:2月28日(当日消印有効)

夕テのカギ  
1. 北の夜空に輝く〇〇〇七星。  
2. 洗濯物を洗ったら次にどうする?  
3. 〇〇〇の上にも3年、などといえます。  
4. もちつきで杵の相棒は?  
5. ミセスのことです。  
6. 唇を英語でいうと?  
7. 冬季にあたる今頃の時期を指します。  
8. 南の島に似合う女性の水着はやっぱりコレ。  
9. 同じ〇〇〇は2度と繰り返さないことが大切。



赤味がかる白。でも撮りたい純白。

白は真つ白に撮りたいのに、ピュアに写りにくい。そんな方にお試しいただきたい優秀なフィルムがあります。フジカラーリアラエース。純白はもちろん、ハッキリした原色、淡い中間色、すべての色を見えるままに忠実に再現します。次の作品はぜひ、リアラエースで。色のことならおまかせください。

従来のISO100フィルム(当社品)



リアラエース



リアラが変わった。エースになった。  
**FUJICOLOR**  
**REALA**  
**ACE**

大伸しプリントで美しさがひときわ冴えるリアラエース

- ISO100クラスで世界最高水準の粒状性をさらに追求。現行と比べ約1/3の超微粒子を実現。
- 最高水準の色再現性にますます磨きをかけ、シャープネスや階調描写もレベルアップ。
- アンダー側のラチチュードを広げ、より幅広い撮影条件をカバー。

ISO100の超高画質カラープリント用フィルム ●135(35mm) 36枚撮り/24枚撮り ●135(35mm) 2本カードバック 36枚撮り/24枚撮り、3本カードバック 36枚撮り、5本カードバック 36枚撮り ●120/220ロールフィルム新発売

富士写真フィルム株式会社 〒106 東京都港区西麻布2-26-30



平成8年12月1日発行 季刊第19号  
カメラのキタムラ発行  
〒2222 横浜市港北区新横浜2-4-1  
☎045-476-0777